

**令和元年度
墨田区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
(概要版)**

令和2年3月

墨 田 区

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和2年度に策定を予定している「墨田区高齢者福祉総合計画・第8期介護保険事業計画」の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(1) 調査の設計

本調査は、厚生労働省が提示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」を基に実施した。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、令和元年10月現在、区内に在住する65歳以上の高齢者を対象に、厚生労働省の示す調査項目に区独自の調査項目を加えて実施した。

① 調査対象者

調査対象者数は、日常生活圏域ごとに各500人とし、このうち要支援・要介護認定を受けていない高齢者は3,520人、要支援1・要支援2の要支援は各480人の計4,000人である。

■調査対象者数

(単位：人)

認定なし	要支援1	要支援2	合 計
3,520	240	240	4,000

② 抽出方法

65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない高齢者は、住民基本台帳による無作為抽出した。要支援認定者は、要支援認定台帳等から無作為抽出した。

③ 調査方法

郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促1回実施）とした。

④ 調査時期

令和元年12月6日～12月20日

(2) 調査項目

厚生労働省の調査項目 (オプション項目を含む64問)	区独自の調査項目 (46問)
○ 家族や生活状況について ○ からだを動かすことについて ○ 食べることについて ○ 毎日の生活について ○ 地域での活動について ○ たすけあいについて ○ 健康について	○ 住まいについて ○ 近所づきあいや地域のつながりについて ○ 受けている手助けについて ○ 災害や緊急時の避難、急病時の対応について ○ 今後の生活について

(3) 回収結果

回収結果は、以下のとおりである。

■回収結果

配布数 A	有効回収数 B	有効回収率 C (B/A)
4,000	2,707	67.7%

3. 本書を利用するにあたって

- 図・表中のn、回答事業所数とは、基数となる実数のことである。
- 回答はn、回答事業所数を100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の―は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 前回調査との比較は今後の報告書の作成の中で検討することとする。

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 基本属性

(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名のご本人」が77.9%、「ご家族が記入」が6.8%、「その他」が0.3%となっている。

(2) 性 別

性別は、男性が43.0%、女性が54.7%となっている。

(3) 年 齢

年齢を「65歳～74歳」「75歳～84歳」「85歳以上」の3区分とすると、65～74歳が46.4%、75～84歳が39.7%、85歳以上が11.6%となっている。

(4) 要支援認定の状況

要支援認定の状況は、「要支援認定を受けていない」が85.2%、「要支援認定を受けている」が12.5%となっている。

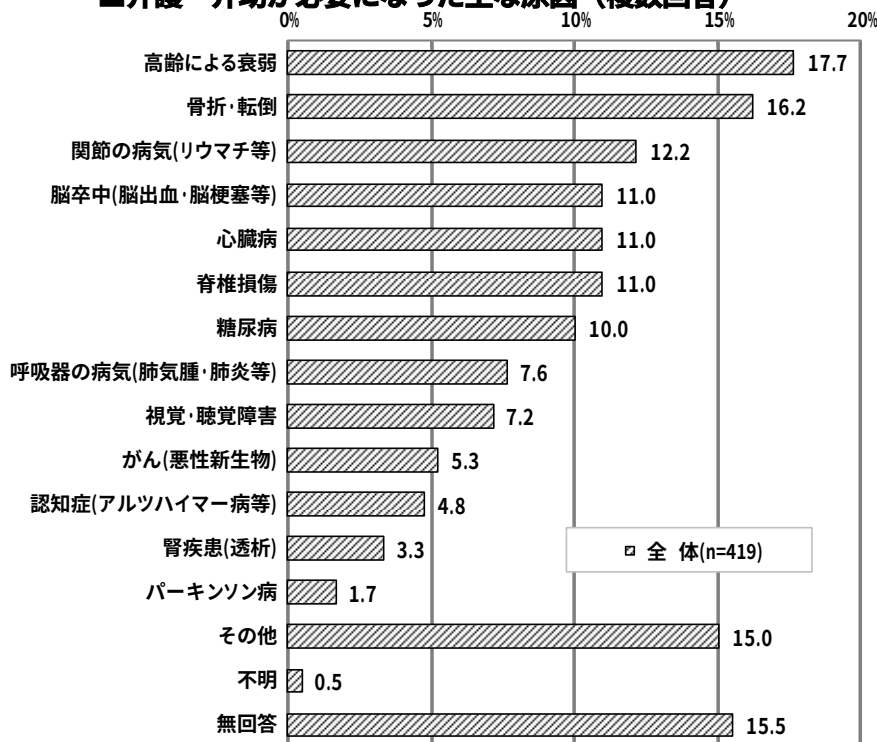
2. 家族や生活状況について

(1) 介護・介助が必要になった主な原因

“介護・介助が必要である”と回答した人の介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」が17.7%と最も多く、「骨折・転倒」が16.2%、「関節の病気(リウマチ等)」が12.2%、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が11.0%、「心臓病」が11.0%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて、みどり地区では「認知症(アルツハイマー病等)」(9.5%)、同愛地区では「関節の病気(リウマチ等)」(15.8%)、「高齢による衰弱」(24.6%)、こうめ地区では「骨折・転倒」(23.3%)、「高齢による衰弱」(25.6%)、むこうじま地区では「心臓病」(18.4%)、「糖尿病」(14.3%)、うめわか地区では「関節の病気(リウマチ等)」(15.6%)、ぶんか地区では「呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)」(18.3%)、「糖尿病」(15.0%)、八広はなみずき地区では「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(17.9%)がそれぞれ多い。

■介護・介助が必要になった主な原因(複数回答)



(単位: %)

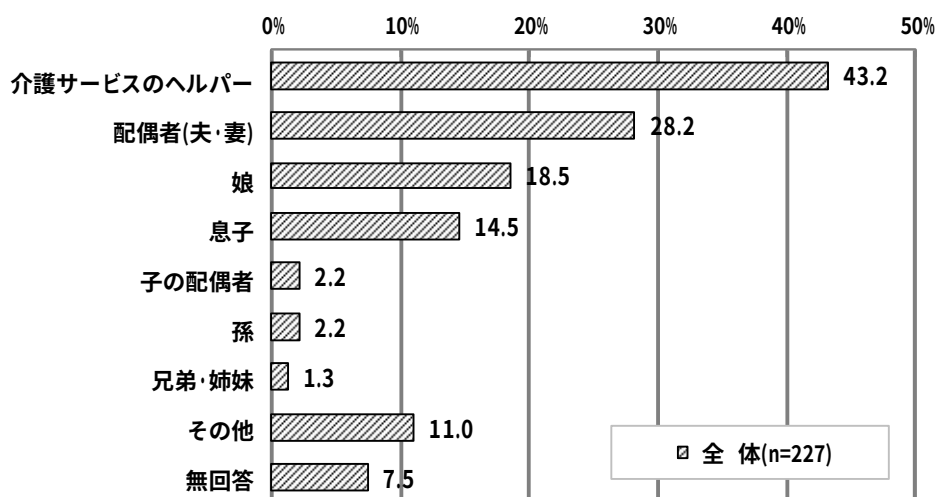
区 分	全 体	みどり	同 愛	なりひら	こうめ	むこうじま	うめわか	ぶんか	八広はなみずき
回答者数(人)	419	42	57	38	43	49	64	60	56
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	11.0	11.9	8.8	5.3	9.3	8.2	9.4	13.3	17.9
心臓病	11.0	11.9	7.0	7.9	7.0	18.4	12.5	13.3	10.7
がん(悪性新生物)	5.3	9.5	—	7.9	2.3	2.0	3.1	10.0	8.9
呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	7.6	4.8	5.3	7.9	7.0	6.1	7.8	18.3	1.8
関節の病気(リウマチ等)	12.2	9.5	15.8	7.9	11.6	8.2	15.6	10.0	14.3
認知症(アルツハイマー病等)	4.8	9.5	5.3	2.6	2.3	4.1	4.7	6.7	3.6
パーキンソン病	1.7	4.8	3.5	2.6	—	—	1.6	—	1.8
糖尿病	10.0	9.5	5.3	7.9	9.3	14.3	4.7	15.0	14.3
腎疾患(透析)	3.3	4.8	3.5	5.3	2.3	—	4.7	5.0	1.8
視覚・聴覚障害	7.2	9.5	12.3	10.5	14.0	6.1	4.7	—	5.4
骨折・転倒	16.2	9.5	8.8	18.4	23.3	10.2	20.3	21.7	14.3
脊椎損傷	11.0	14.3	8.8	10.5	14.0	10.2	14.1	11.7	7.1
高齢による衰弱	17.7	11.9	24.6	18.4	25.6	20.4	9.4	13.3	19.6
その他	15.0	16.7	15.8	18.4	18.6	10.2	10.9	18.3	14.3
不明	0.5	—	—	2.6	—	2.0	—	—	—
無回答	15.5	14.3	21.1	10.5	9.3	18.4	20.3	11.7	14.3

(2) 主な介護・介助者

“介護・介助が必要である”と回答した人の主な介護・介助者は、「介護サービスのヘルパー」が43.2%と最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が28.2%、「娘」が18.5%、「息子」が14.5%となっている。

地区別にみると、みどり地区では「息子」(23.8%)、みどり地区、ぶんか地区では「配偶者(夫・妻)」(それぞれ33.3%、34.3%)、八広はなみずき地区では「娘」(36.4%)、こうめ地区では「介護サービスのヘルパー」(63.0%)がそれぞれ多い。

■主な介護・介助者（複数回答）



(単位: %)

区 分	(人) 回答者数	(夫・妻) 配偶者	息子	娘	子の 配偶者	孫	兄弟・ 姉妹	介護サ ービス のヘル パー	その他	無 回 答
全 体	227	28.2	14.5	18.5	2.2	2.2	1.3	43.2	11.0	7.5
みどり	21	33.3	23.8	23.8	4.8	4.8	—	28.6	14.3	—
同 愛	26	15.4	11.5	11.5	—	—	3.8	50.0	19.2	7.7
なりひら	19	31.6	15.8	—	—	—	5.3	42.1	5.3	10.5
こうめ	27	25.9	14.8	22.2	—	—	—	63.0	7.4	11.1
むこうじま	25	20.0	20.0	8.0	—	4.0	—	40.0	12.0	16.0
うめわか	34	26.5	14.7	17.6	5.9	—	—	55.9	5.9	8.8
ぶんか	35	34.3	2.9	20.0	5.7	—	2.9	31.4	22.9	2.9
八広はなみずき	33	30.3	15.2	36.4	—	9.1	—	33.3	3.0	6.1

※IADLとは、モノや道具を使ってする生活能力のことをいう。ADL(日常生活動作)が、自立して生活するための基本的な身体的動作(食事、入浴、排泄など)を指しているのに対し、IADLはより広義で、日常の動作より応用的な動作が必要な活動(バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど)を指している。

3. 毎日の生活について

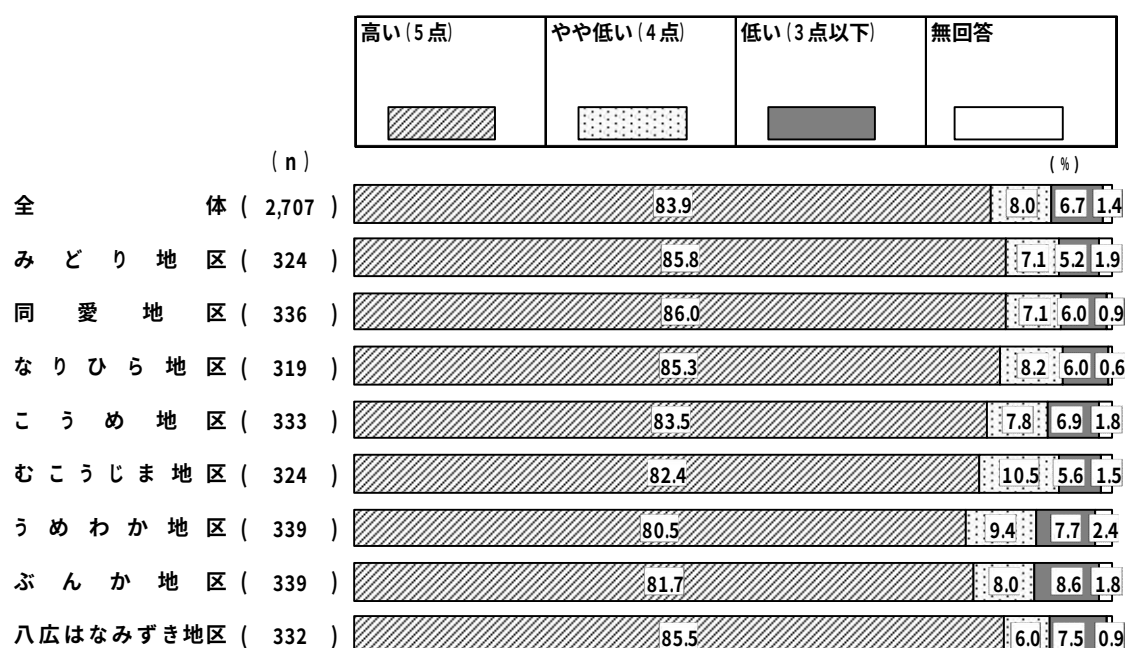
(1) 手段的日常生活動作 (IADL※) (Instrumental Activities of Daily Living)

調査票の第4の(4)バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)、(5)自分で食品・日用品の買物をしていますか、(6)自分で食事の用意をしていますか、(7)自分で請求書の支払いをしていますか、(8)自分で預貯金の出し入れをしていますかの設定で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した人に1点、「できない」と回答した人に0点と加点し、5点が「高い」、4点が「やや低い」、3点以下が「低い」とした。

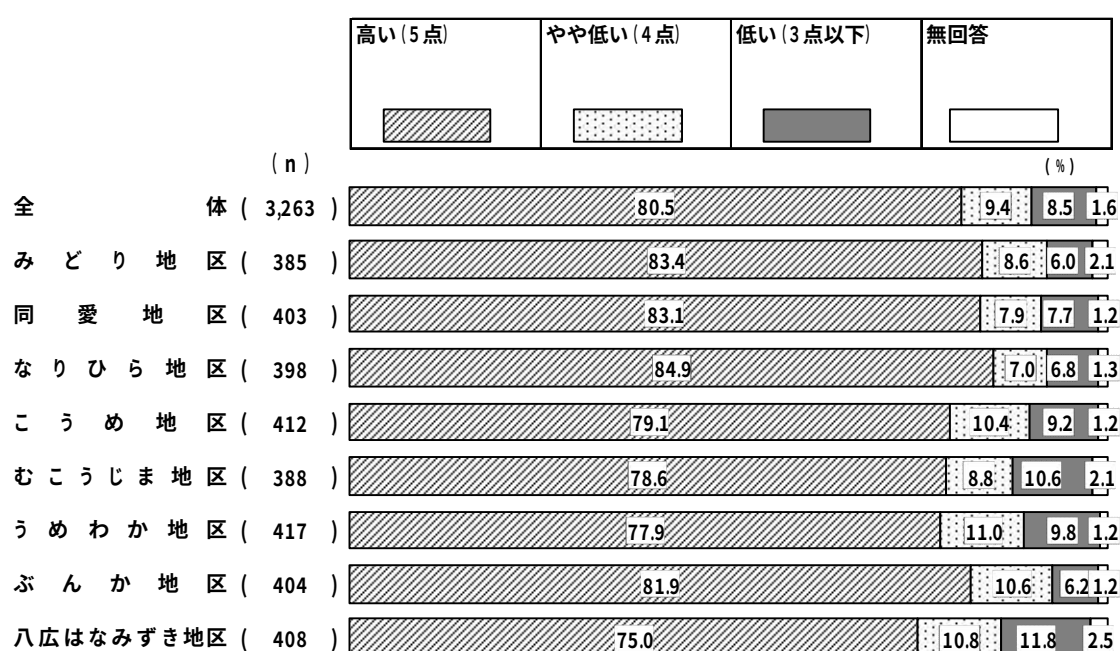
手段的日常生活動作は、「高い」が83.9%、「やや低い」と「低い」を合わせた「低い」が14.7%となっている。前回調査と比較すると「高い」がやや増加している。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区で「高い」が最も多く(86.0%)、うめわか地区(80.5%)が最も少ない。

■手段的日常生活動作



■手段的日常生活動作 (前回調査)

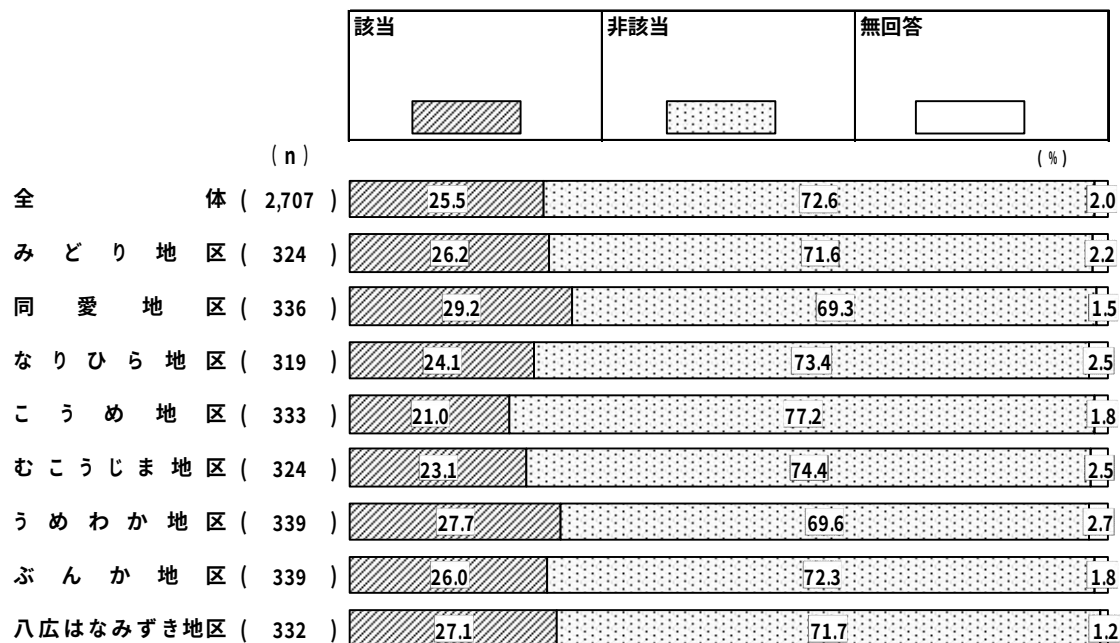


(2) 転倒リスク該当者

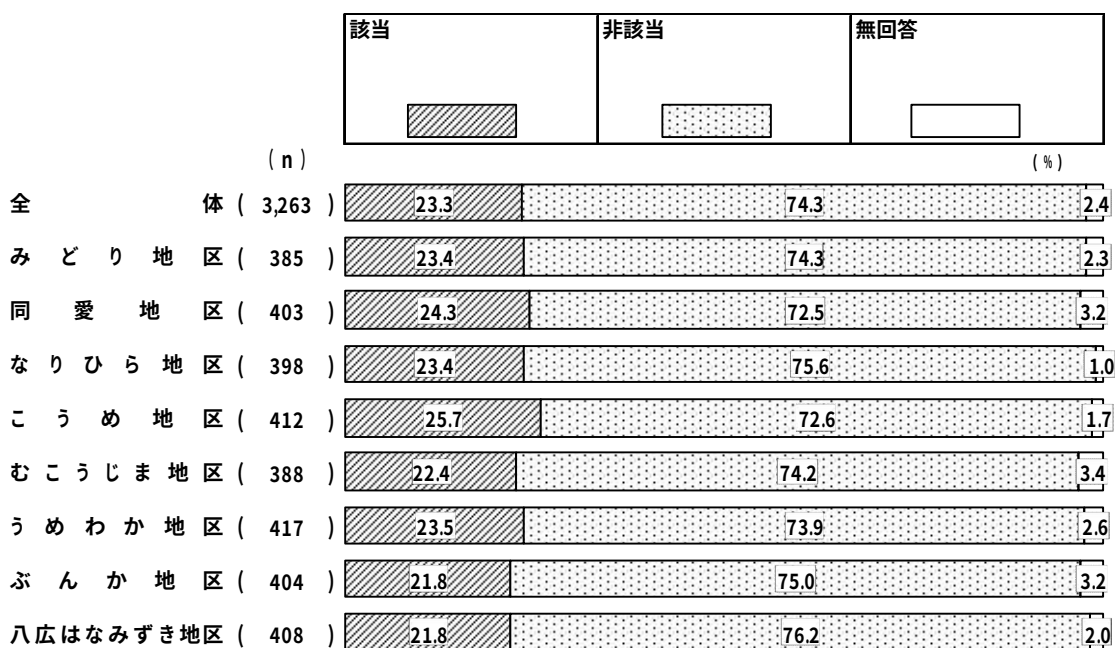
調査票第2の(4)過去1年間に転んだ経験がありますかの設問で「何度もある」「1度ある」と回答し、かつ(5)転倒に対する不安は大きいのですかの設問で「とても不安である」「やや不安である」と回答した人を転倒リスク該当者とした場合、転倒リスク該当者は25.5%となっている。前回調査と比較すると、同愛地区で「該当」が4.9ポイント増加している。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区(29.2%)で最も多く、こうめ地区(21.0%)で最も少ない。

■転倒リスク該当者



■転倒リスク該当者(前回調査)

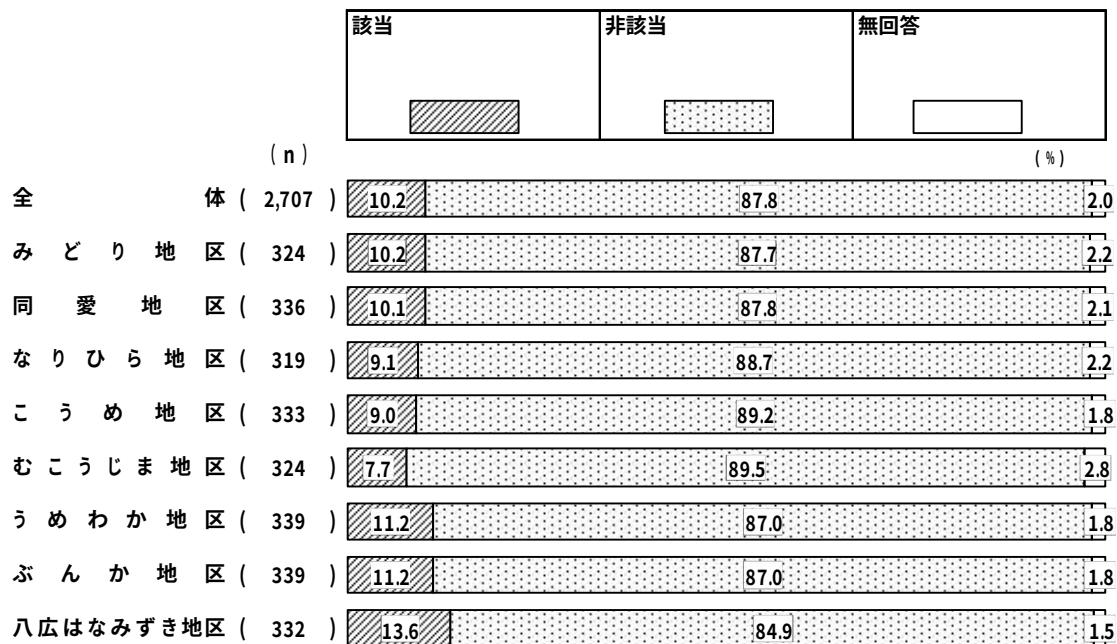


(3) 閉じこもりのリスク該当者

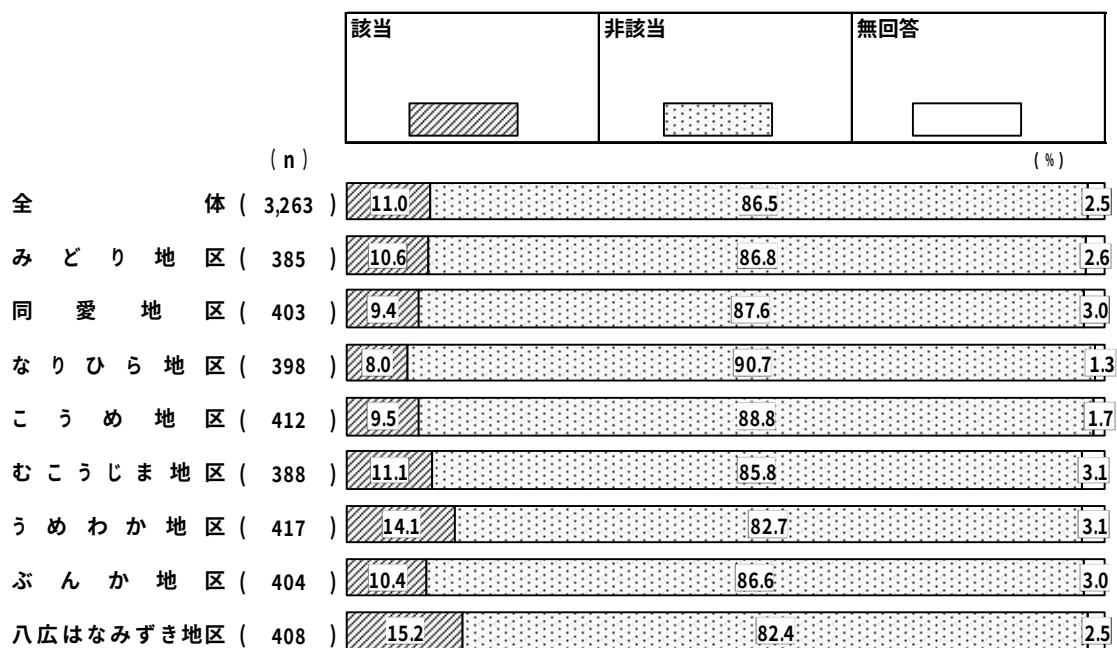
調査票第2の(6)週に1回以上は外出していますかの設問で「ほとんど外出しない」「週1回」と回答し、かつ(7)昨年と比べて外出の回数が減っていますかの設問で「とても減っている」「減っている」と回答した人を閉じこもりのリスク該当者とした場合、閉じこもりのリスク該当者は10.2%となっている。前回調査と比較すると大きな差異はみられないが、多くの地区でリスク該当者がやや減少している。

地区別にみると、他の地区と比べて八広はなみずき地区(13.6%)で最も多く、むこうじま地区(7.7%)で最も少ない。

■閉じこもりのリスク該当者



■閉じこもりのリスク該当者（前回調査）

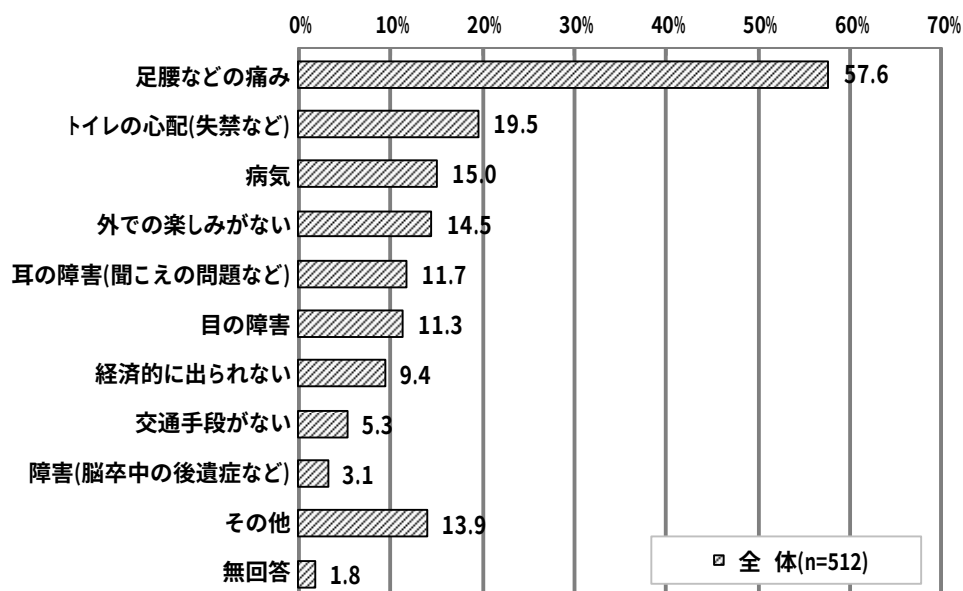


(4) 外出を控えている理由

前問で外出を控えていると回答した方の外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が57.6%で最も多く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が19.5%、「病気」が15.0%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区では「トイレの心配」(27.5%)、なりひら地区では「病気」(18.8%)、こうめ地区では「足腰などの痛み」(66.7%)、「経済的に出られない」(16.7%)、うめわか地区では「耳の障害」(15.8%)、「目の障害」(18.4%)、「外での楽しみがない」(18.4%)がそれぞれ多い。

■外出を控えている理由(複数回答)



■外出を控えている理由(地区別)

(単位: %)

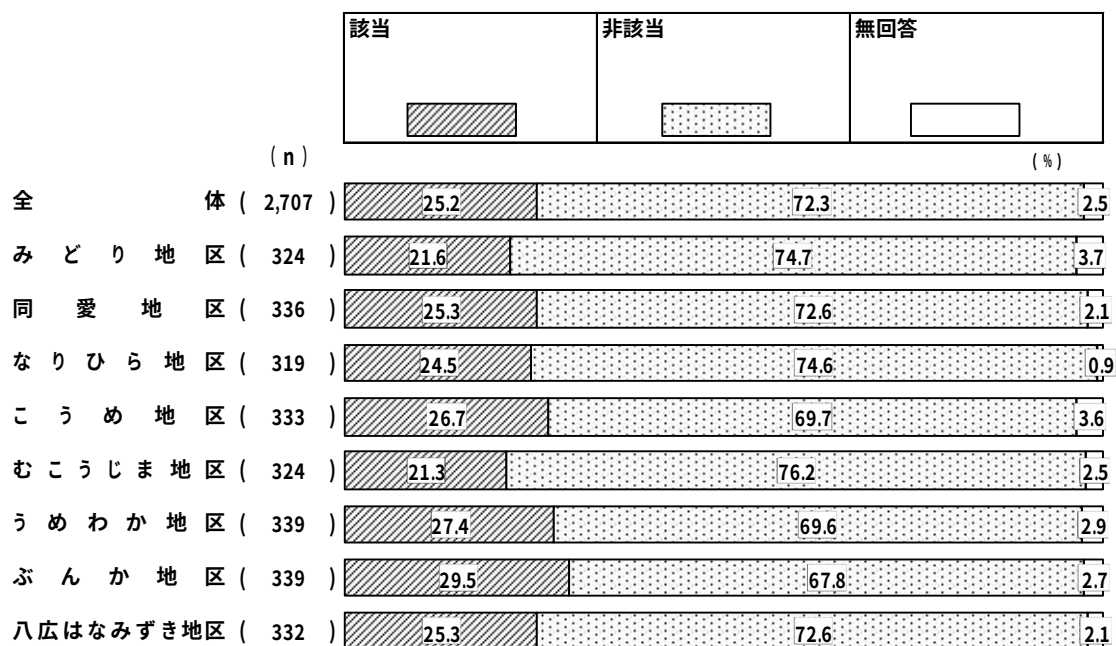
区 分	全 体	みどり	同 愛	なりひら	こうめ	むこうじま	うめわか	ぶんか	はなみずき
回答者数(人)	512	52	69	69	54	59	76	64	63
病 気	15.0	7.7	11.6	18.8	14.8	18.6	17.1	14.1	15.9
障害	3.1	5.8	—	2.9	3.7	5.1	2.6	1.6	4.8
足腰などの痛み	57.6	53.8	62.3	53.6	66.7	49.2	51.3	59.4	65.1
トイレの心配	19.5	19.2	27.5	18.8	22.2	20.3	11.8	18.8	19.0
耳の障害	11.7	7.7	10.1	8.7	11.1	13.6	15.8	14.1	12.7
目の障害	11.3	13.5	10.1	2.9	14.8	10.2	18.4	10.9	9.5
外での楽しみがない	14.5	15.4	13.0	11.6	16.7	16.9	18.4	12.5	11.1
経済的に出られない	9.4	3.8	7.2	4.3	16.7	13.6	10.5	10.9	7.9
交通手段がない	5.3	7.7	1.4	1.4	5.6	5.1	7.9	4.7	9.5
その他	13.9	19.2	20.3	11.6	7.4	10.2	11.8	17.2	14.3
無回答	1.8	—	—	1.4	—	1.7	3.9	4.7	1.6

(5) 口腔機能低下のリスク該当者

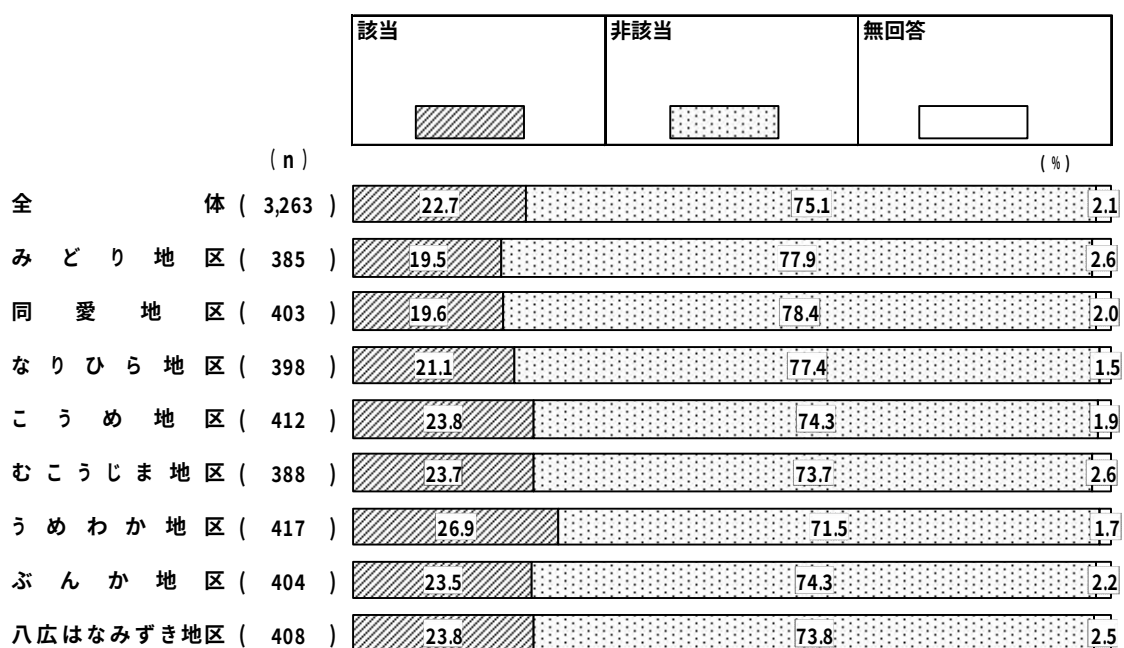
調査票第3の(2)半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたかの設問で「はい」と回答し、かつ(3)お茶や汁物等でむせることがありますか、(4)口の渇きが気になりますかの設問で「はい」と回答した人のうち、2問以上「はい」と回答した人を口腔機能低下のリスク該当者とした場合、口腔機能低下のリスク該当者は25.2%となっている。前回調査と比較すると、リスク該当者はやや増加しており、同愛地区、ぶんか地区ではそれぞれ5.7ポイント、6.0ポイント増加している。

地区別にみると、他の地区と比べてぶんか地区(29.5%)で最も多く、むこうじま地区(21.3%)で最も少ない。

■口腔機能低下のリスク該当者



■口腔機能低下のリスク該当者 (前回調査)

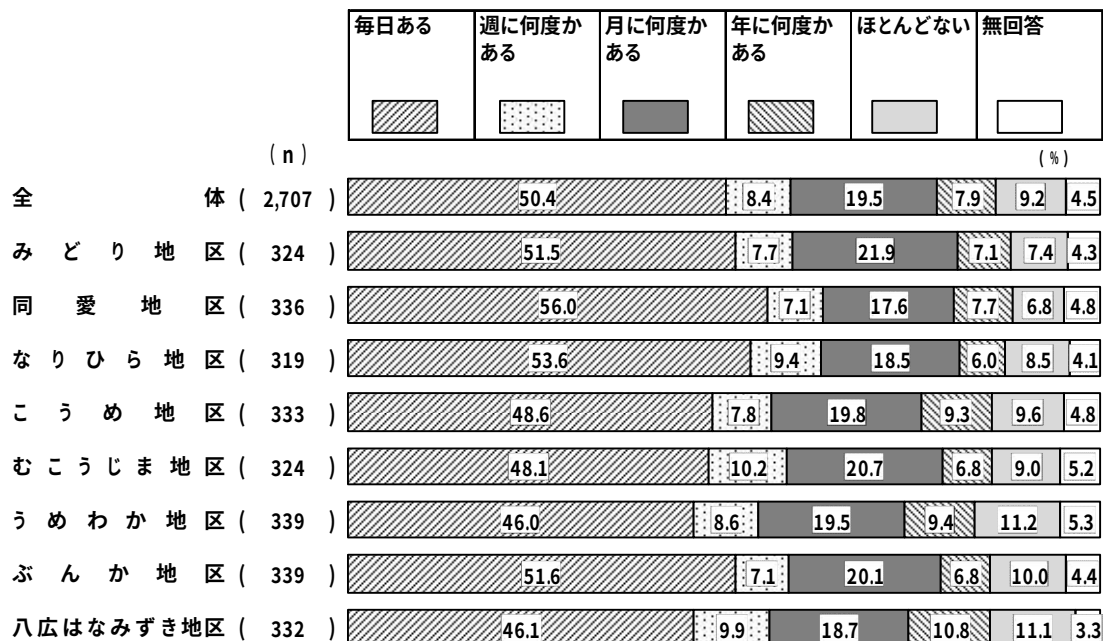


(6) 孤食の状況

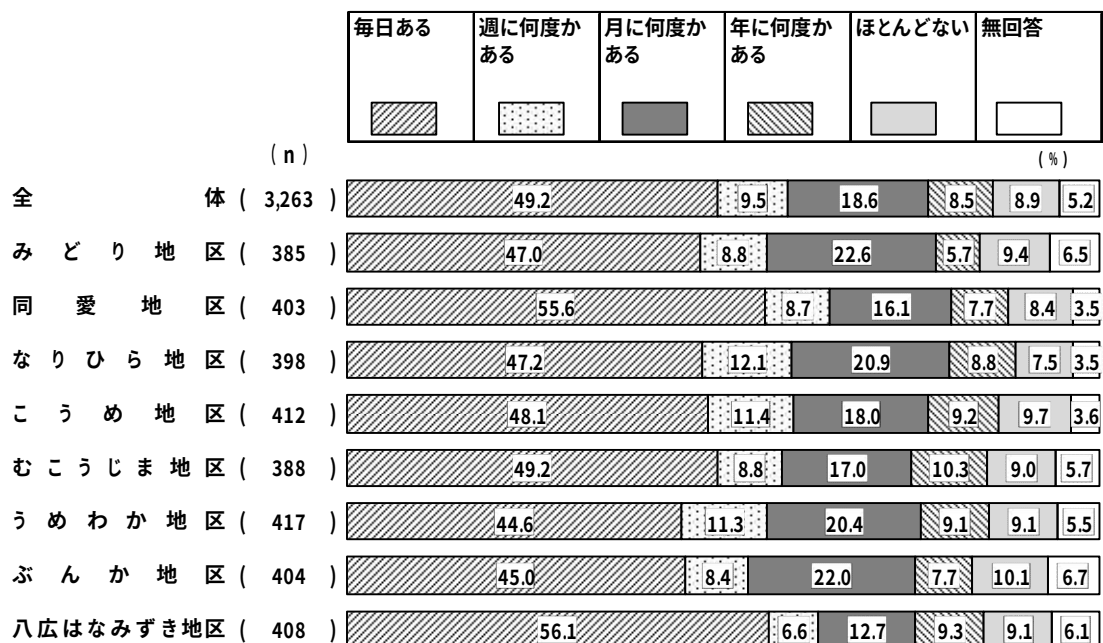
誰かと食事をともにする機会が「毎日ある」人が 50.4%で最も多く、「週に何度かある」(8.4%)、「月に何度かある」(19.5%)と回答した人も含めると、食事をともにする機会がある人は 78.3%である。これに対し、「年に何度かある」と「ほとんどない」と回答した人を合わせた“孤食傾向”にある人は 17.1%となっている。前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区では「毎日ある」(56.0%)が多い。

■孤食の状況



■孤食の状況（前回調査）

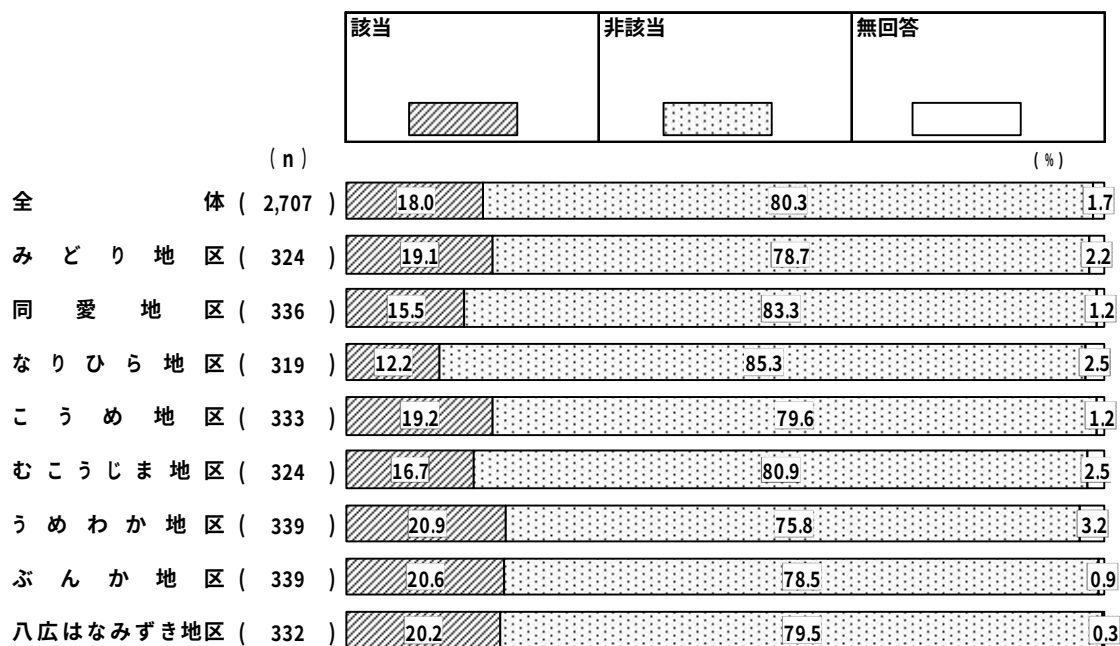


(7) うつのリスク該当者

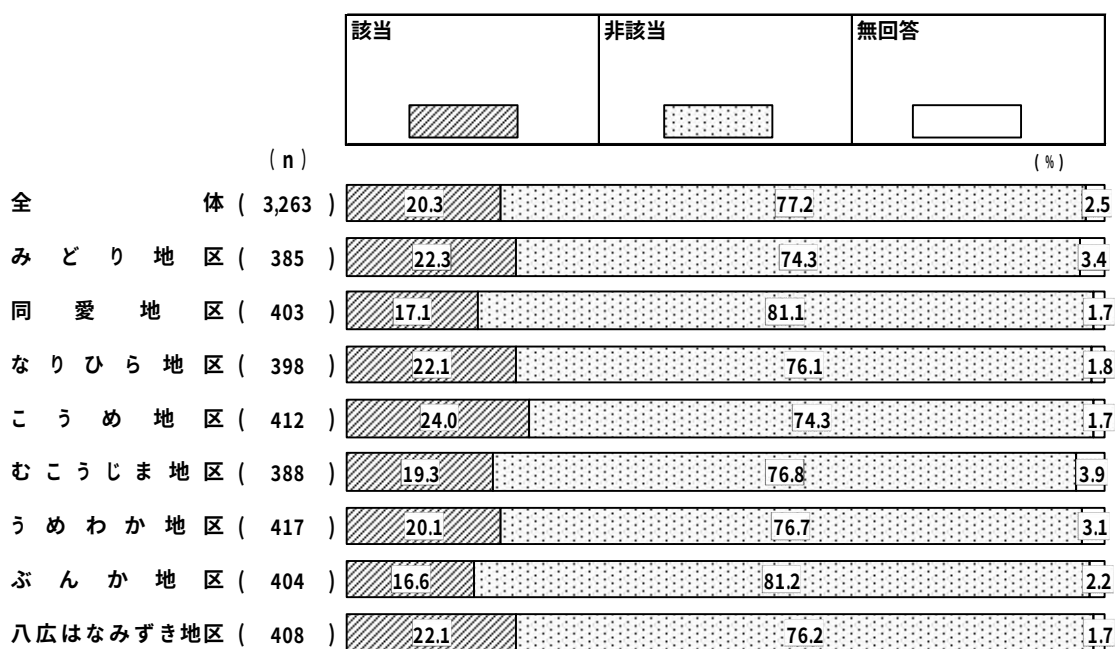
調査票の第7の(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか、(4)この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたかの設問とともに「はい」と回答した人をうつ傾向の高齢者とした場合、うつのリスク該当者は18.0%となっている。前回調査と比較すると、なりひら地区でリスク該当者が9.9ポイント減少している。

地区別にみると、他の地区と比べてうめわか地区(20.9%)で最も多く、なりひら地区(12.2%)で最も少ない。

■うつのリスク該当者



■うつのリスク該当者(前回調査)



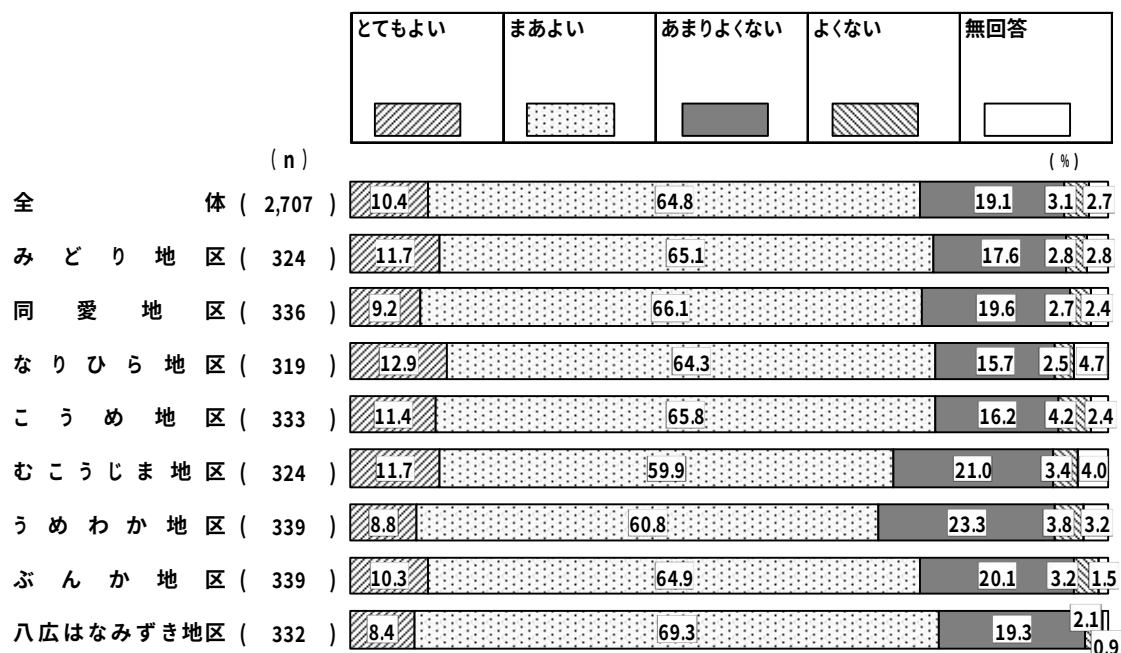
4. 健康について

(1) 現在の健康状態

現在の健康状態は「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“よい”が75.2%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“よくない”が22.2%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてうめわか地区で“よくない”（27.1%）がやや多い。

■現在の健康状態



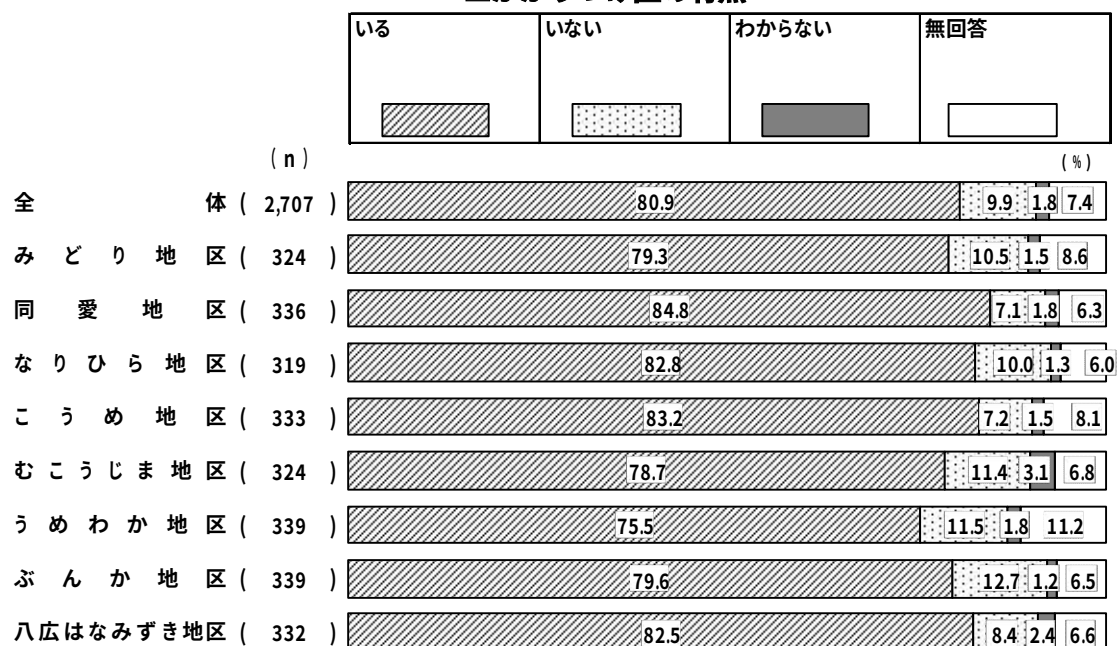
(2) 「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」「かかりつけ薬局」の有無

① かかりつけ医

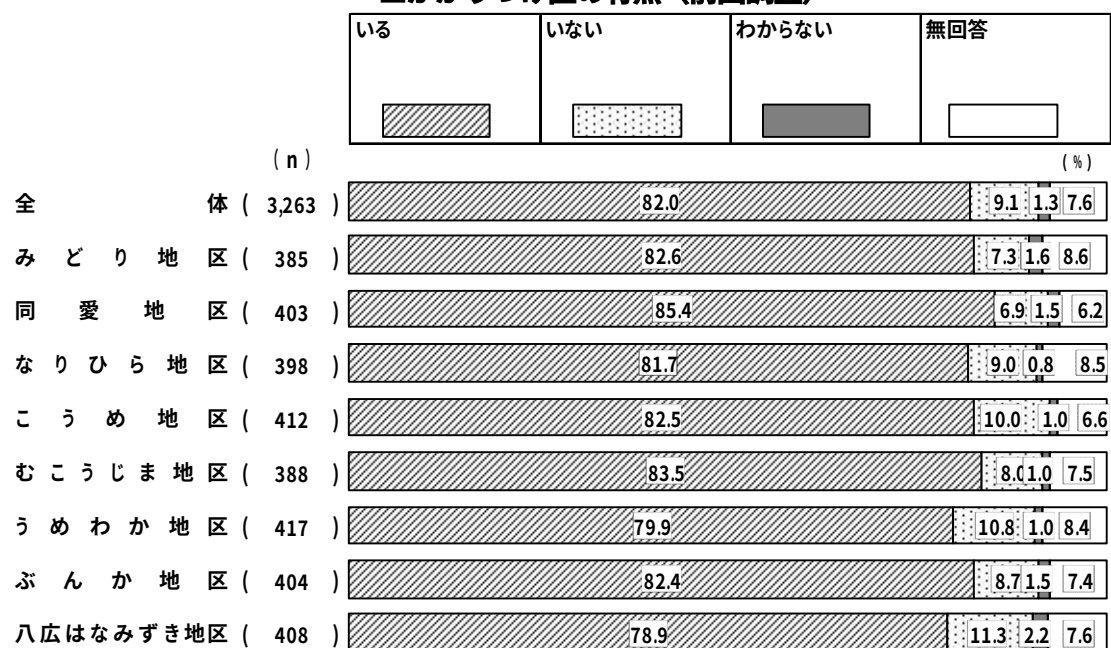
かかりつけ医の有無は、「いる」が80.9%、「いない」が9.9%、「わからない」が1.8%となっている。前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区（84.8%）で最も多く、うめわか地区（75.5%）で最も少ない。全体とほぼ同様の傾向を示している。

■かかりつけ医の有無



■かかりつけ医の有無（前回調査）

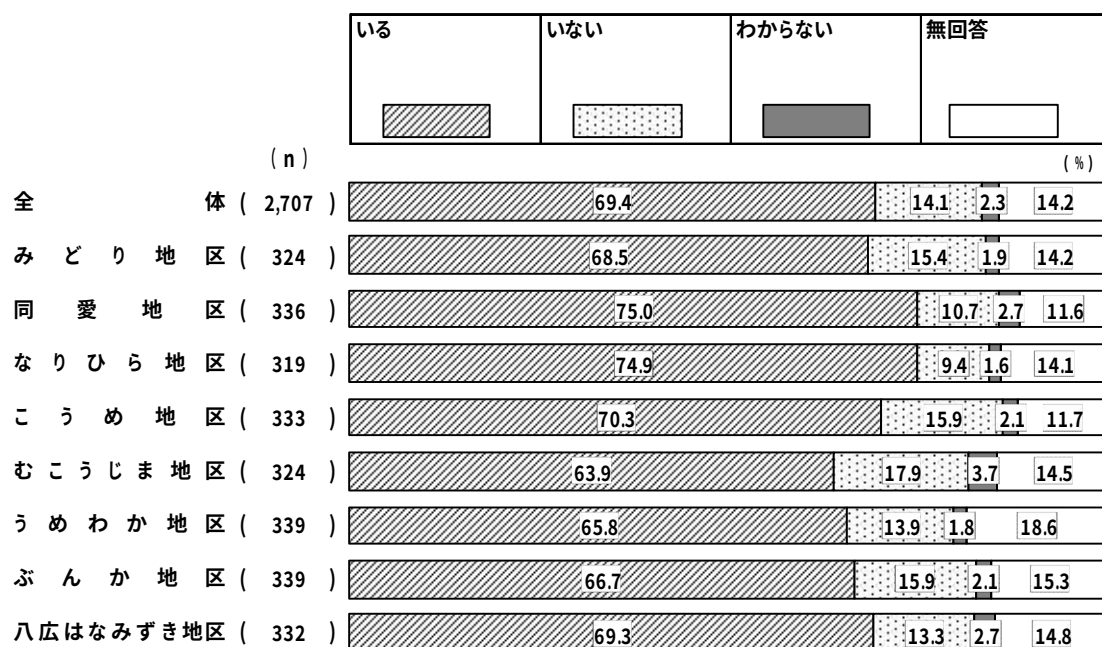


② かかりつけ歯科医

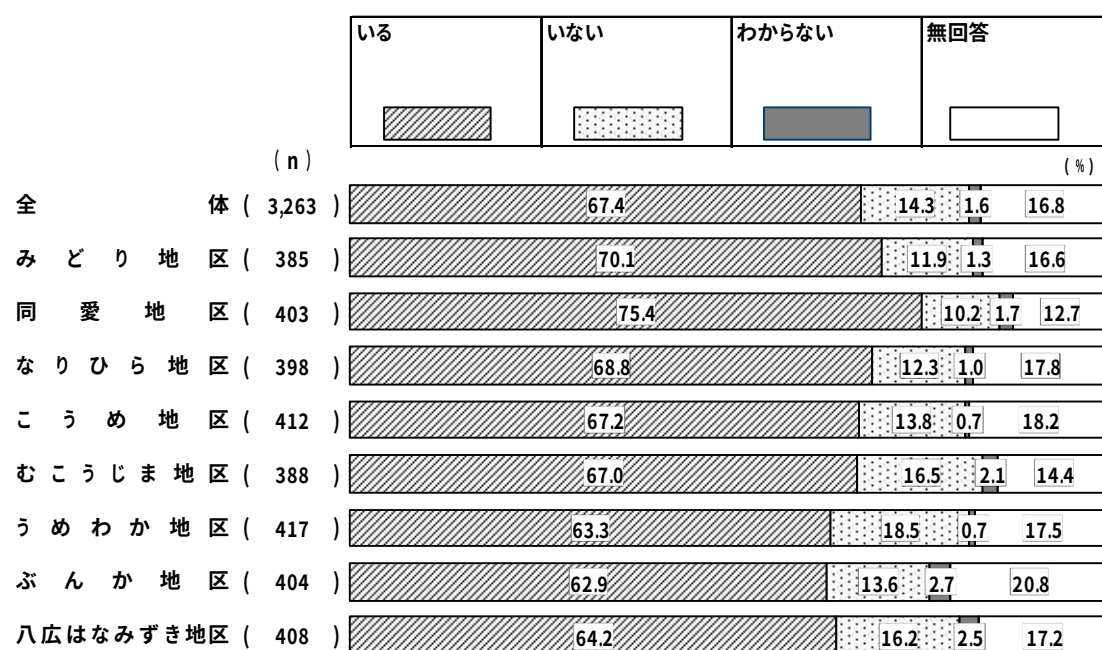
かかりつけ歯科医の有無は、「いる」が69.4%、「いない」が14.1%、「わからない」が2.3%となっている。前回調査と比較すると、八広はなみずき地区で「いる」が5.1ポイント増加している。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区、なりひら地区では「いる」（それぞれ75.0%、74.9%）が多く、むこうじま地区では「いない」（17.9%）がやや多い。

■かかりつけ歯科医の有無



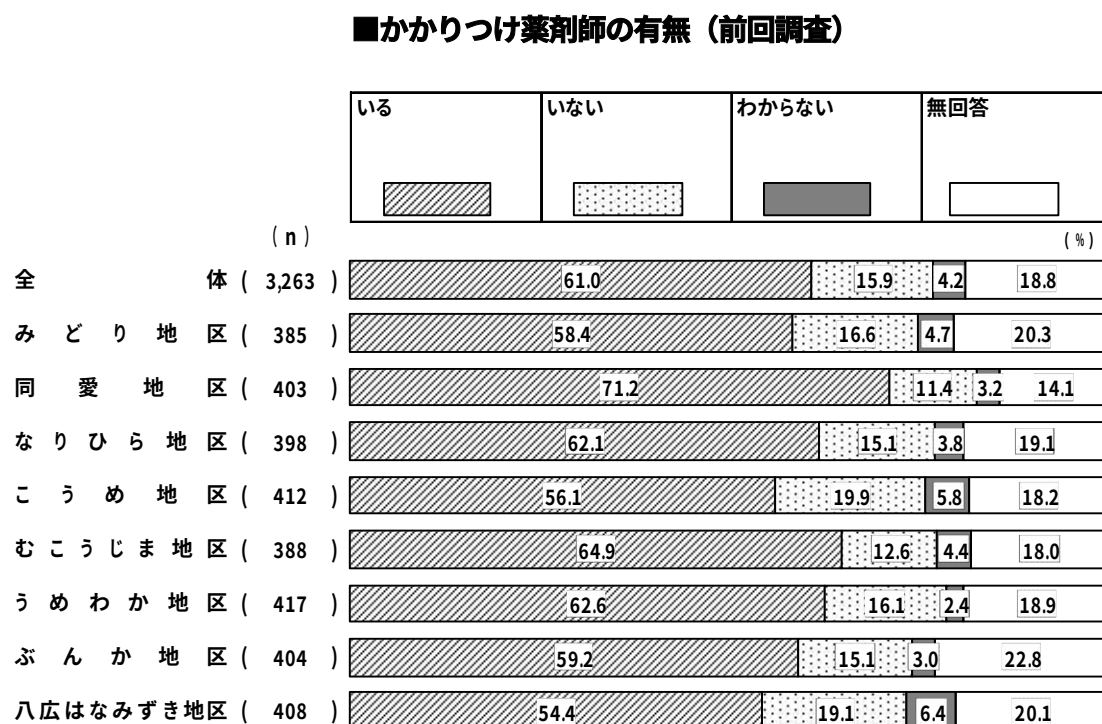
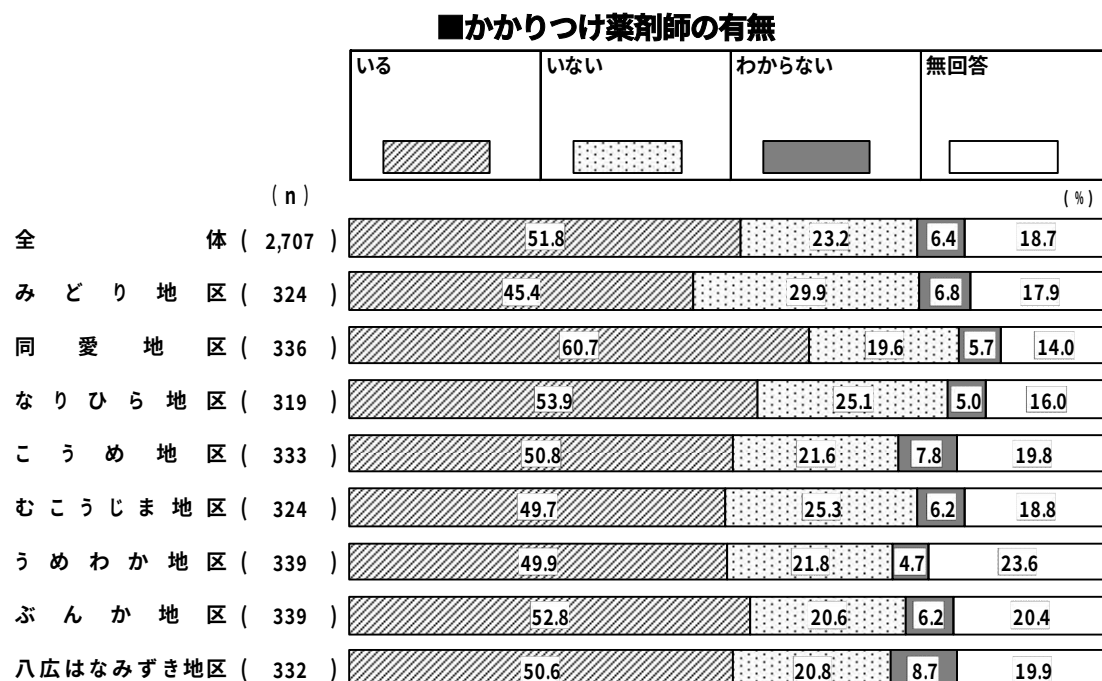
■かかりつけ歯科医の有無（前回調査）



③ かかりつけ薬剤師

かかりつけ薬局の有無は、「いる」が51.8%、「いない」が23.2%、「わからない」が6.4%となっている。前回調査と比較すると、「いる」が9.2ポイント減少しており、みどり地区では13ポイント、同愛地区では10.5ポイント減少している。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区では「いる」（60.7%）が多い。



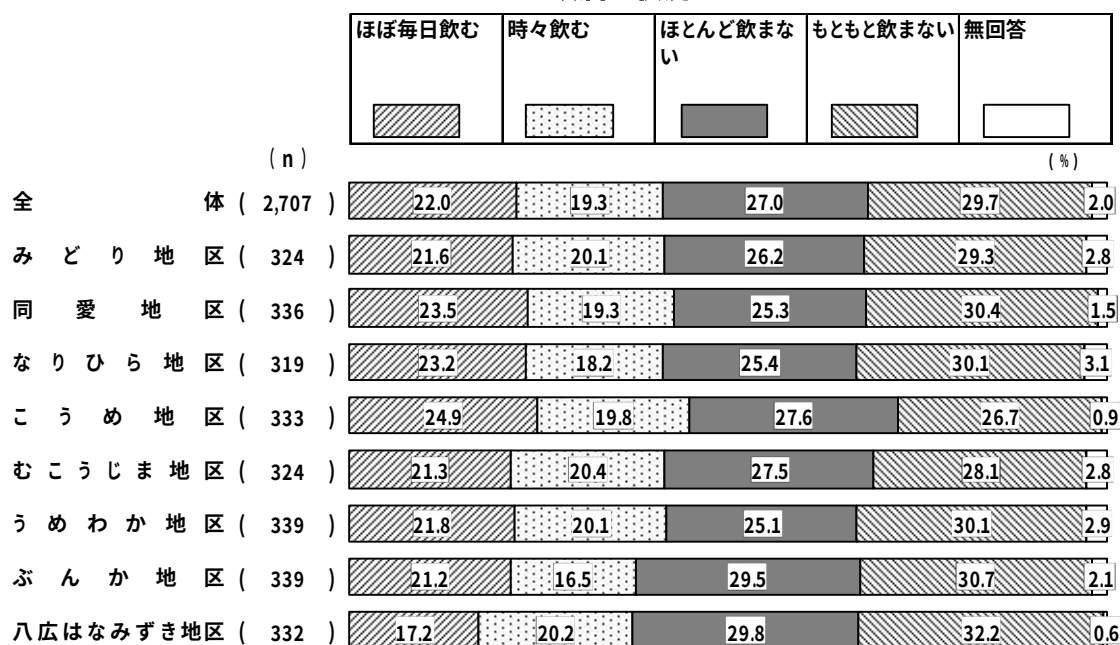
(3) 飲酒と喫煙の状況

① 飲酒の状況

飲酒の状況は、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた“飲酒の習慣がある”人は41.3%、「ほとんど飲まない」と「もともと飲まない」を合わせた“飲酒の習慣がない”人は56.7%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて八広はなみずき地区では“飲酒の習慣がない”人（62.0%）がやや多い。

■飲酒の状況

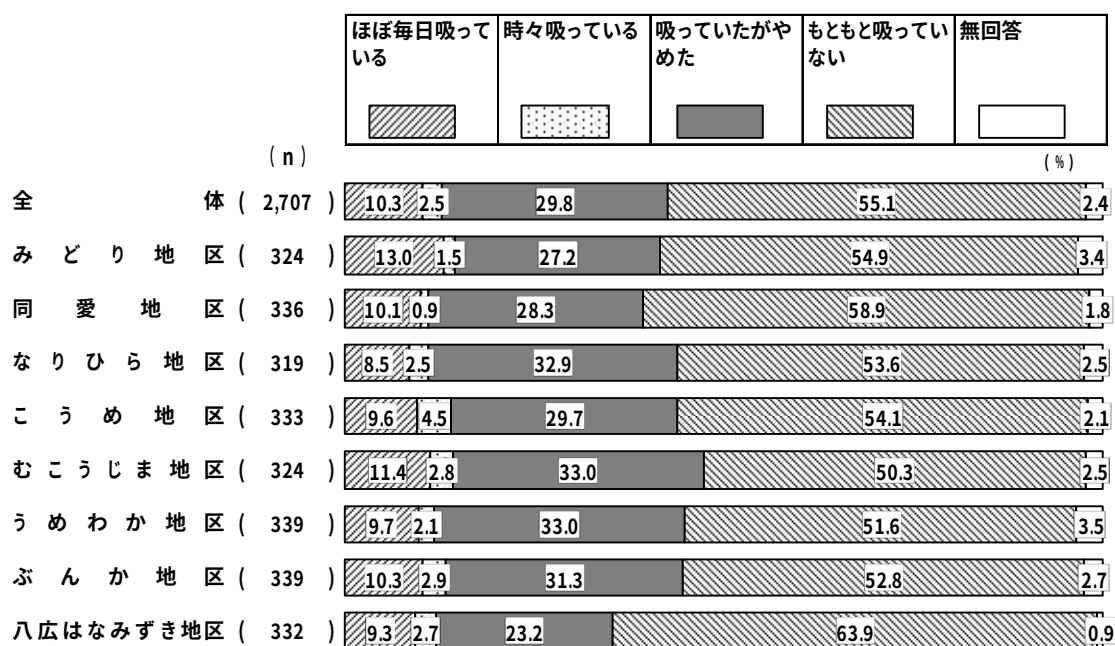


② 喫煙の状況

喫煙の状況は、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“喫煙習慣がある”人は12.8%、「吸っていたがやめた」と「もともと吸っていない」を合わせた“喫煙習慣がない”人は84.9%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてみどり地区では“喫煙習慣がある”人（14.5%）が多い。

■喫煙の状況

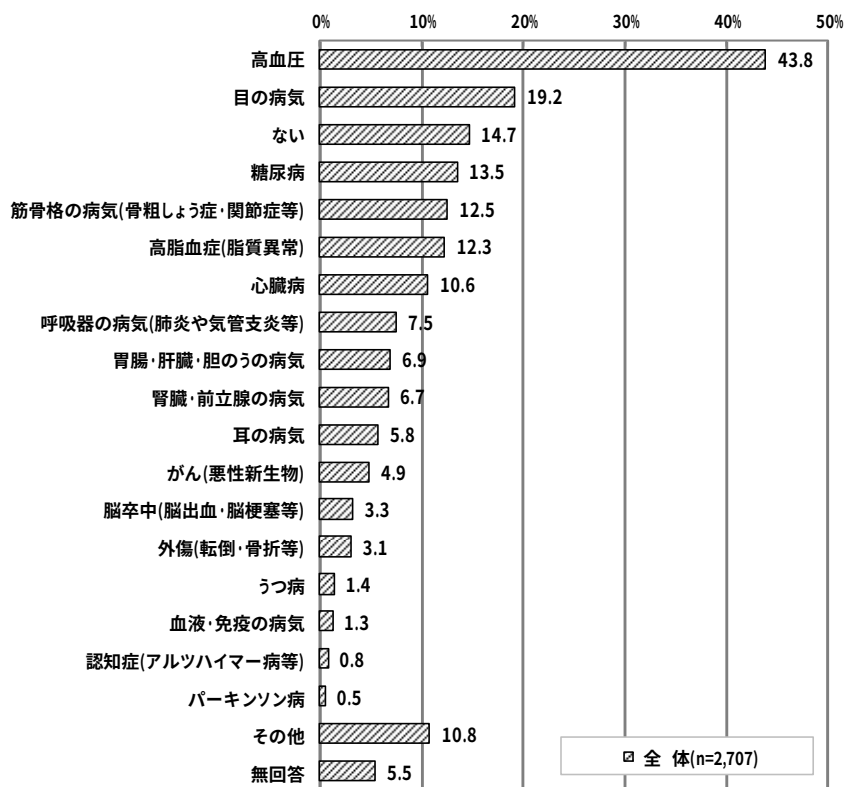


(4) 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」が43.8%で最も多く、次いで「目の病気」が19.2%、「ない」が14.7%、「糖尿病」が13.5%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」が12.5%、「高脂血症(脂質以上)」が12.3%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてこうめ地区では「高血圧」(46.5%)がやや多い。

■現在治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



(単位: %)

区 分	回答者数(人)	ない	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気
全 体	2,707	14.7	43.8	3.3	10.6	13.5	12.3	7.5	6.9	6.7	12.5
みどり	324	16.4	42.0	2.8	12.7	13.9	12.0	9.0	7.1	8.6	11.7
同 愛	336	16.4	44.3	3.6	10.4	13.1	13.7	7.1	7.1	5.1	11.3
なりひら	319	15.4	44.8	2.5	12.5	14.4	14.1	7.2	6.9	7.5	12.5
こうめ	333	17.1	46.5	3.0	8.1	13.5	9.0	6.9	4.2	3.9	13.5
むこうじま	324	14.5	42.0	3.4	10.5	14.5	11.7	8.0	8.3	7.1	13.0
うめわか	339	10.6	44.2	3.5	12.7	13.9	10.3	7.1	8.0	5.3	11.2
ぶんか	339	13.6	44.2	4.1	9.1	11.2	10.3	8.3	5.0	8.6	14.5
八広はなみずき	332	13.6	41.9	2.7	9.6	13.6	16.3	7.2	9.0	7.5	12.3
区 分	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全 体	3.1	4.9	1.3	1.4	0.8	0.5	19.2	5.8	10.8	5.5	
みどり	2.5	3.7	0.9	0.9	0.6	0.6	21.6	4.0	10.8	5.9	
同 愛	2.4	4.8	1.2	2.1	0.3	0.9	18.8	4.5	11.0	4.2	
なりひら	3.4	6.3	1.3	1.6	0.9	0.9	16.0	6.3	9.1	3.4	
こうめ	3.6	6.0	1.5	2.1	0.9	0.9	24.0	5.7	11.1	3.6	
むこうじま	3.4	4.3	1.5	1.5	0.3	0.6	19.8	7.1	8.0	5.6	
うめわか	3.8	3.8	0.6	0.9	0.3	—	17.4	6.5	10.3	9.7	
ぶんか	3.2	5.3	1.5	0.6	2.1	—	18.9	6.8	13.3	6.5	
八広はなみずき	2.1	4.2	1.2	1.8	0.9	0.3	19.3	6.0	12.7	3.9	

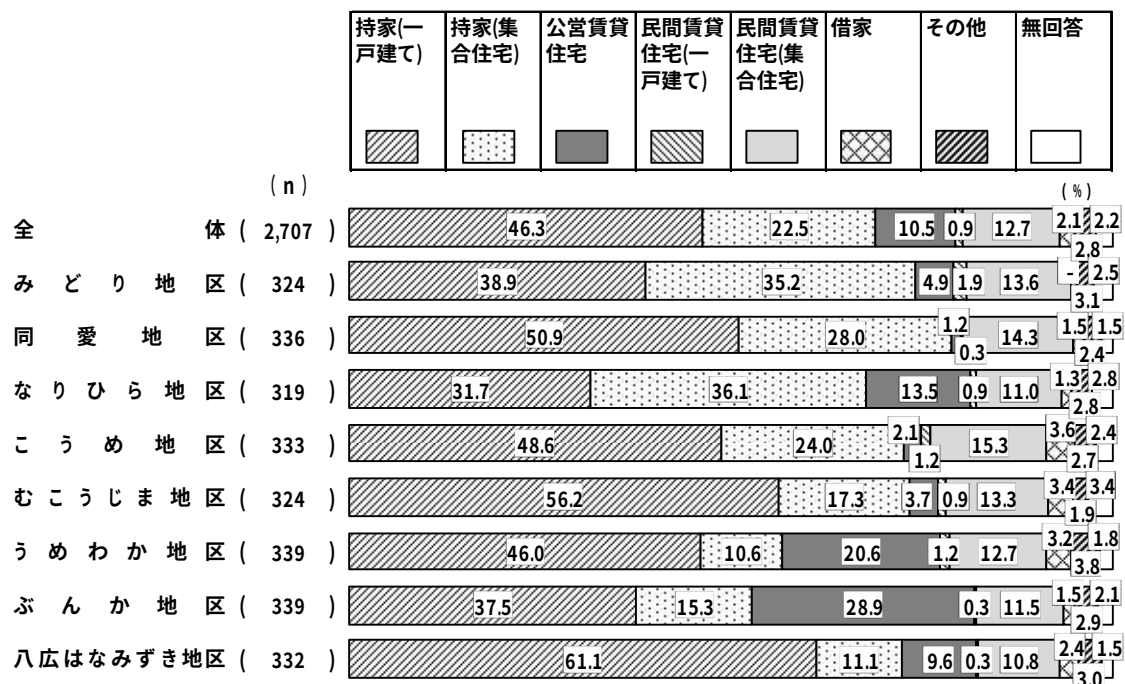
5. 住まいについて

(1) 住居形態

住居形態は、「持家（一戸建て）」が46.3%で最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が22.5%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が12.7%、「公営賃貸住宅」が10.5%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてみどり地区、なりひら地区では「持家（集合住宅）」（それぞれ35.2%、36.1%）、むこうじま地区、八広はなみずき地区では「持家（一戸建て）」（それぞれ56.2%、61.1%）、うめわか地区、ぶんか地区では「公営賃貸住宅」（それぞれ20.6%、28.9%）が多い。

■住居形態

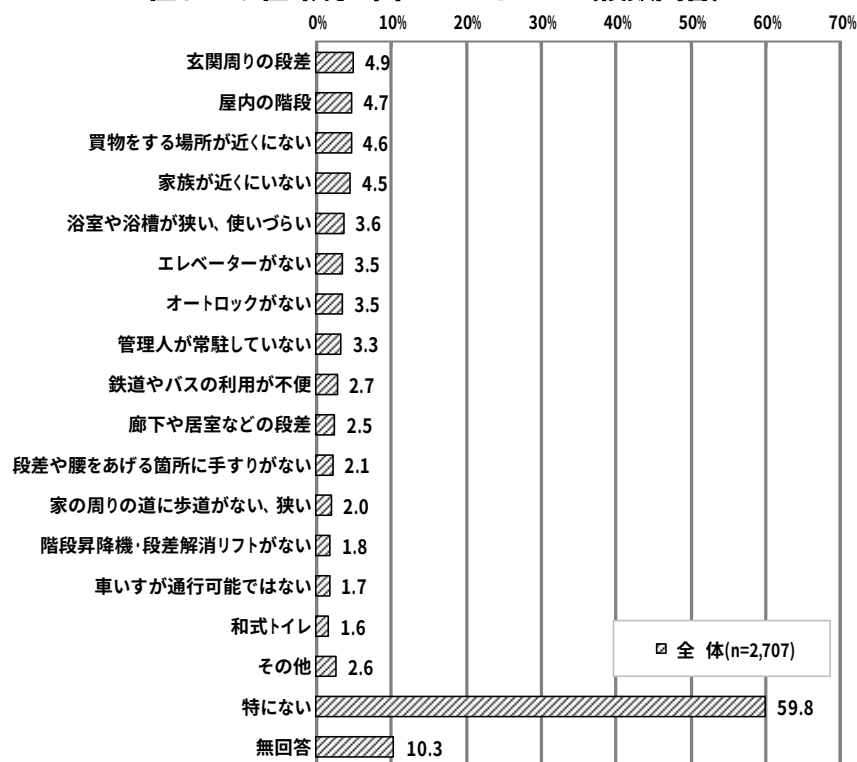


(2) 住まいや住環境で困っていること

住まいや住環境で困っていることは、「特にない」が過半数を占めている中で、「玄関周りの段差」が4.9%と最も多く、次いで「屋内の階段」が4.7%、「買物をする場所が近くにない」が4.6%、「家族が近くにいない」が4.5%、「浴室や浴槽が狭い、使いづらい」が3.6%、「エレベーターがない」「オートロックがない」がともに3.5%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてみどり地区、なりひら地区では「特にない」(それぞれ64.2%、63.9%)が多く、こうめ地区では「屋内の階段」(7.2%)、八広はなみずき地区では「買物をする場所が近くにない」(11.7%)がやや多い。

■住まいや住環境で困っていること（複数回答）



■住まいや住環境で困っていること（複数回答）

(単位：%)

区 分	全 体	みどり	同 愛	なりひら	こうめ	むこうじま	うめわか	ぶんか	八広はなみずき
回答者数(人)	2,707	324	336	319	333	324	339	339	332
玄関周りの段差	4.9	3.1	4.5	4.4	5.4	4.9	5.9	5.6	5.7
廊下や居室などの段差	2.5	1.2	3.3	1.3	4.2	2.2	2.7	2.4	2.7
屋内の階段	4.7	2.5	2.7	5.3	7.2	4.9	5.0	3.8	6.0
和式トイレ	1.6	1.9	1.8	0.9	2.4	1.2	1.2	1.5	2.1
段差や腰をあげる箇所に手すりがない	2.1	1.5	2.4	1.3	3.0	2.2	1.8	2.4	2.7
車いすが通行可能ではない	1.7	2.2	1.5	0.9	0.9	0.6	3.2	1.5	2.7
浴室や浴槽が狭い、使いづらい	3.6	2.2	3.0	4.1	5.7	3.4	3.5	3.8	3.9
エレベーターがない	3.5	5.2	5.4	3.1	4.2	1.9	1.8	1.8	4.5
階段昇降機・段差解消リフトがない	1.8	1.9	2.7	1.9	1.8	1.2	1.5	1.2	2.7
オートロックがない	3.5	3.4	3.3	3.1	2.1	2.8	5.6	5.0	2.1
管理人が常駐していない	3.3	3.7	4.5	2.5	2.7	2.8	3.8	3.2	3.3
家の周りの道に歩道がない、狭い	2.0	0.9	1.8	0.6	2.7	1.9	3.2	1.5	3.3
買物をする場所が近くにない	4.6	3.1	3.0	1.9	5.4	3.7	6.8	1.5	11.7
鉄道やバスの利用が不便	2.7	0.9	1.8	1.3	4.8	2.5	6.2	2.9	1.5
家族が近くにいない	4.5	4.6	3.0	3.4	3.9	4.9	6.8	4.1	6.0
その他	2.6	1.9	3.0	3.1	3.6	3.1	1.8	1.5	2.7
特にない	59.8	64.2	61.6	63.9	59.5	59.3	52.2	58.7	56.9
無回答	10.3	10.5	9.5	11.9	6.6	12.0	13.0	13.0	7.2

6. 近所付き合いや地域のつながりについて

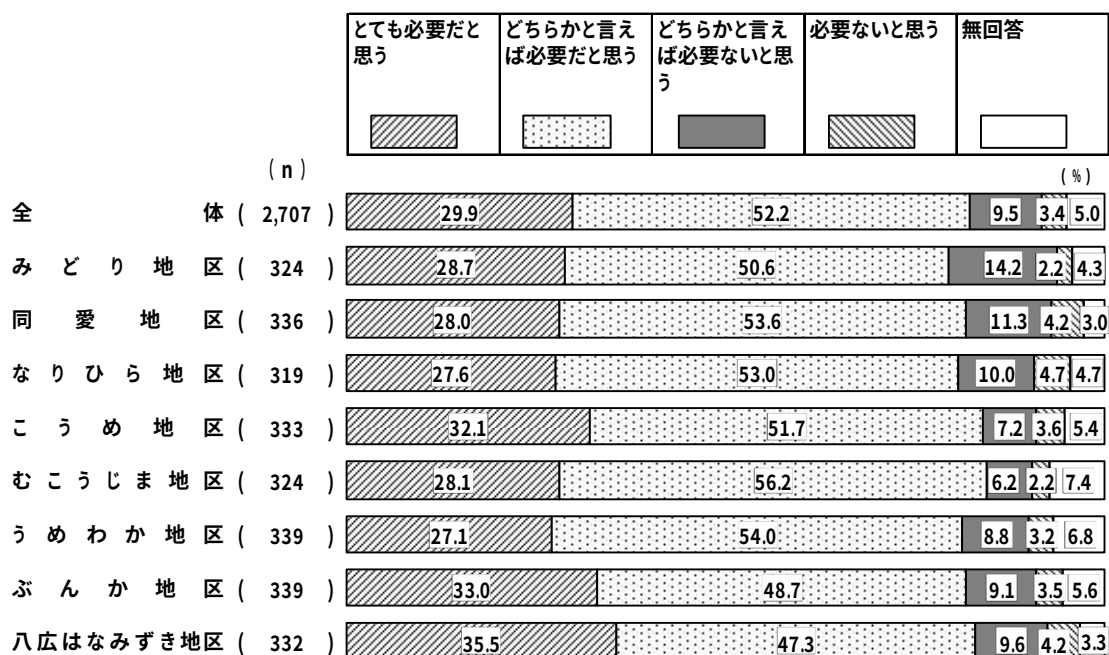
(1) 近所付き合いや地域のつながり

① 地域のつながりの必要性

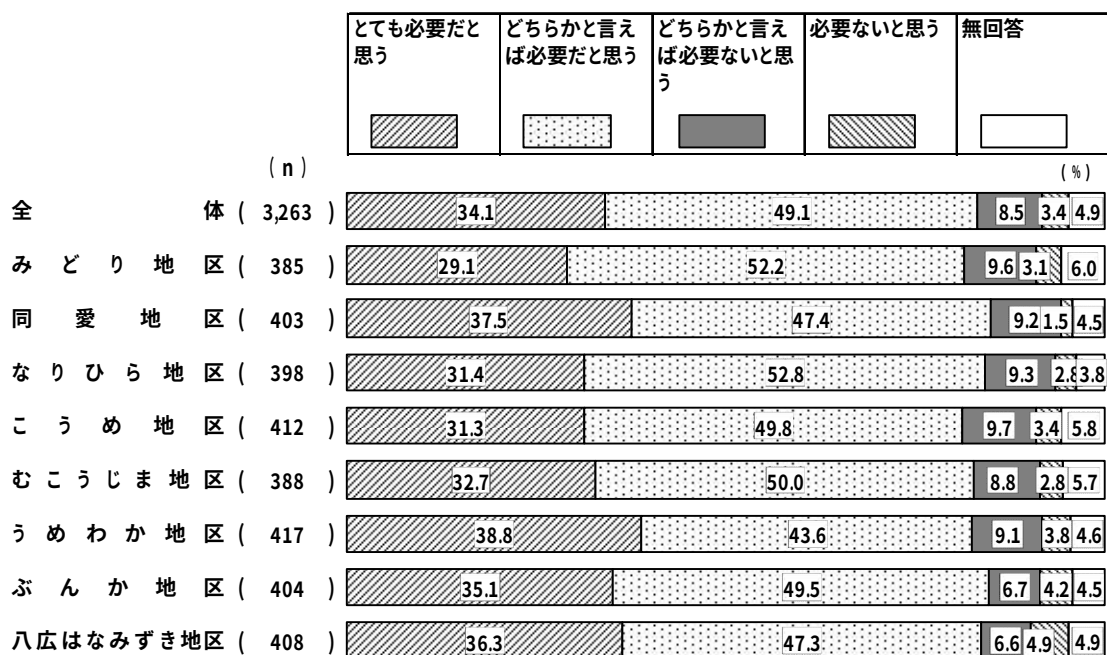
地域のつながりの必要性は、「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば必要だと思う」を合わせた“必要だと思う”が82.1%。「どちらかと言えば必要ないと思う」と「必要ないと思う」を合わせた“必要ないと思う”が12.9%となっている。前回調査と比較すると大きな差異はみられない。

地区別にみると、他の地区と比べて八広はなみずき地区では「とても必要だと思う」（35.5%）がやや多い。

■地域のつながりの必要性



■地域のつながりの必要性（前回調査）



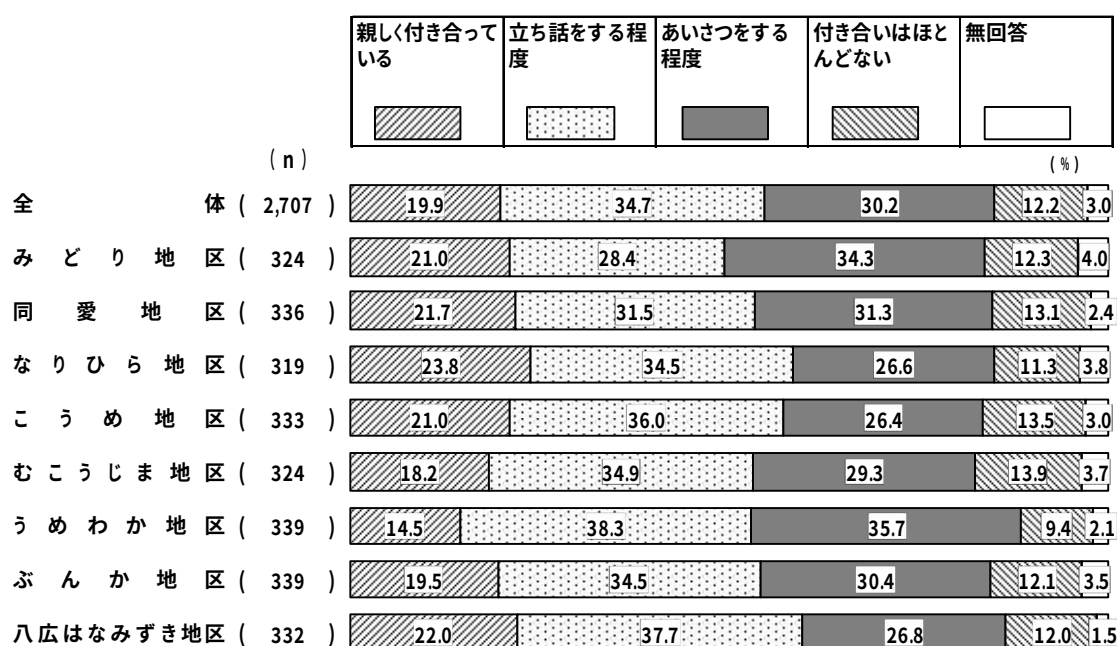
② 近所付き合いの程度と付き合いがない理由

ア. 近所付き合いの程度

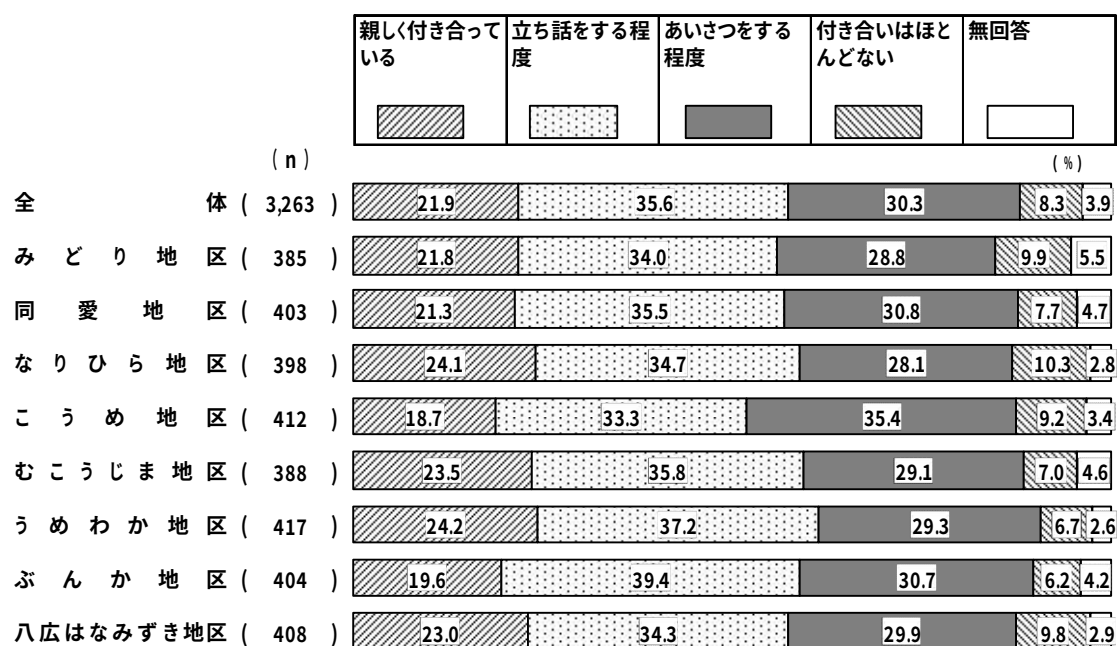
近所付き合いの程度は、「親しく付き合っている」が19.9%で、「立ち話をする程度」と「あいさつをする程度」を合わせた“近所付き合いが浅い”が64.9%、「付き合いはほとんどない」が12.2%となっている。前回調査と比較すると、こうめ地区では“近所付き合いが浅い”が6.3ポイント減少しているのに対し、うめわか地区では7.5ポイント増加している。

地区別にみると、他の地区と比べてうめわか地区では“近所付き合いが浅い”（74.0%）がやや多い。

■近所付き合いの程度

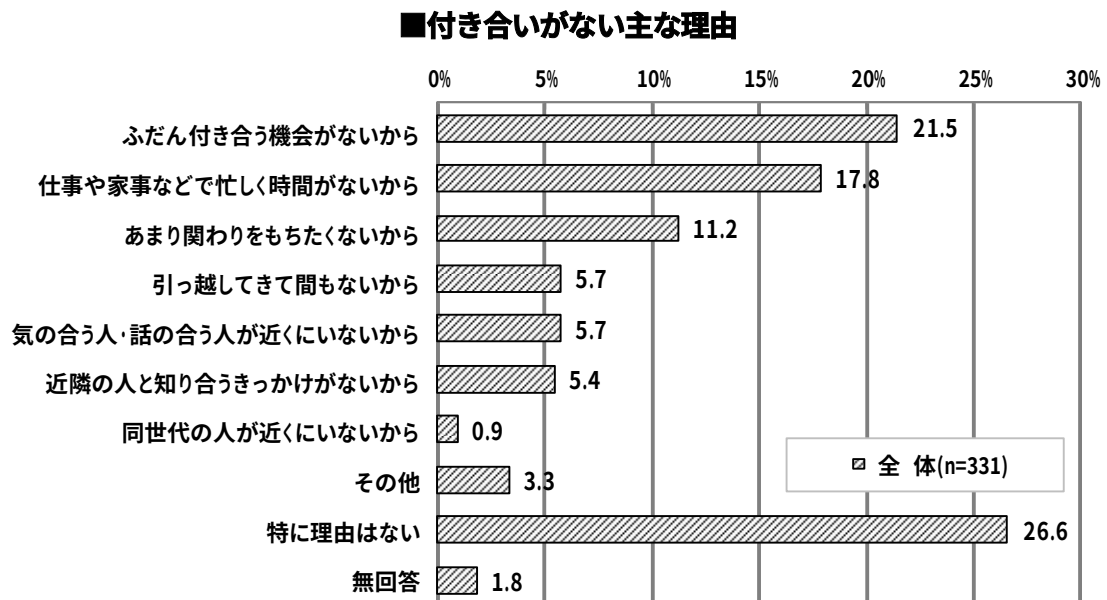


■近所付き合いの程度（前回調査）



イ. 付き合いがない主な理由

前問で「付き合いはほとんどない」と回答した人の付き合いがない主な理由は、「特に理由はない」が2割半ばを超えている中で、「ふだん付き合う機会がないから」が21.5%で最も多く、次いで「仕事や家事などで忙しく時間がないから」が17.8%、「あまり関わりをもちたくないから」が11.2%となっている。



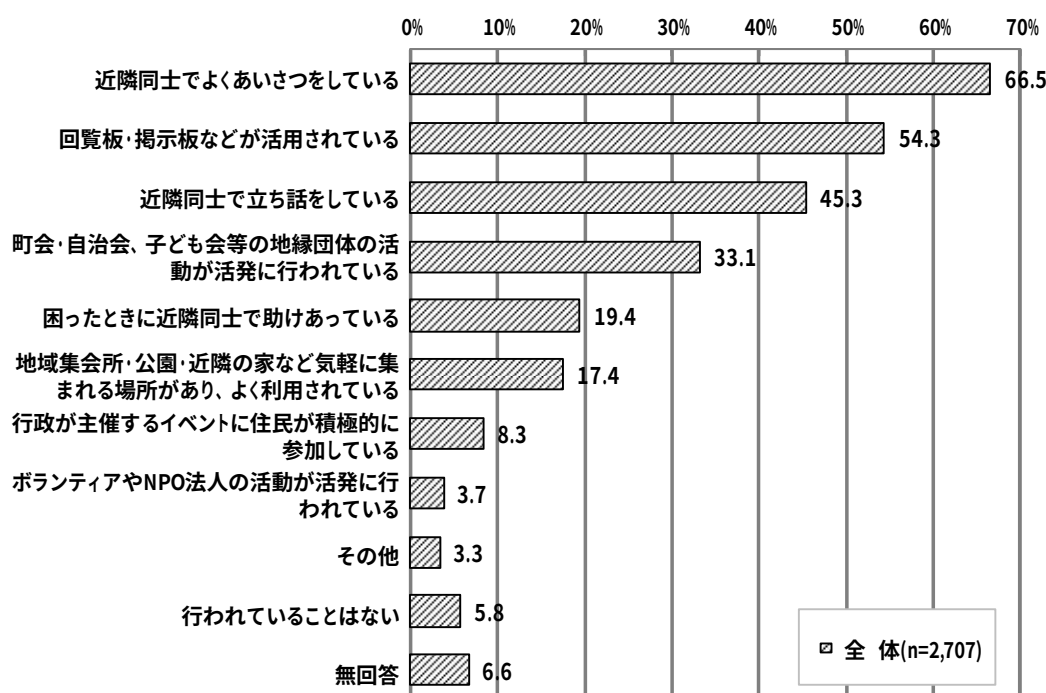
(2) 地域活動や支え合い活動への参加状況

① 地域で行われている活動

地域で行われている活動は、「近隣同士でよくあいさつをしている」が66.5%で最も多く、次いで「回覧板・掲示板などが活用されている」が54.3%、「近隣同士で立ち話をしている」が45.3%、「町会・自治会、子ども会等の地縁団体の活動が活発に行われている」が33.1%、「困ったときに近隣同士で助けあっている」が19.4%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区、うめわか地区、ぶんか地区では「回覧板・掲示板などが活用されている」（それぞれ56.5%、57.8%、56.3%）、ぶんか地区では「気軽に集まれる場所があり、よく利用されている」（23.0%）、なりひら地区では「行政が主催するイベントに住民が参加している」（13.2%）が多い。

■地域で行われている活動（複数回答）



■地域で行われている活動（地区別）

(単位：%)

区 分	回答者数(人)	近隣同士でよくあいさつをしている	近隣同士で立ち話をしている	困ったときに近隣同士で助けあっている	回覧板・掲示板などが活用されている	地縁団体の活動が活発に行われている	気軽に集まれる場所があり、よく利用されている	ボランティアやNPO団体の活動が活発に行われている	行政が主催するイベントに住民が参加している	その他	行われていることはない	無回答
全 体	2,707	66.5	45.3	19.4	54.3	33.1	17.4	3.7	8.3	3.3	5.8	6.6
みどり	324	65.4	40.7	19.1	54.0	38.0	19.1	5.6	10.2	3.1	6.2	7.1
同 愛	336	66.1	43.8	19.9	56.5	44.0	16.4	3.6	10.1	3.0	5.1	6.8
なりひら	319	69.0	45.8	16.9	50.5	41.4	21.6	4.4	13.2	1.9	5.6	5.6
こうめ	333	67.0	45.9	20.7	52.6	32.1	13.5	2.7	8.1	5.7	6.3	7.2
むこうじま	324	67.9	45.1	20.4	52.5	24.1	16.0	3.7	5.9	3.4	4.0	8.3
うめわか	339	64.3	47.5	17.1	57.8	26.8	12.1	3.2	7.1	2.7	5.9	7.7
ぶんか	339	66.1	47.5	20.1	56.3	31.3	23.0	3.2	6.5	2.7	5.0	7.1
八広はなみずき	332	66.6	48.2	22.0	53.9	27.1	17.5	3.0	6.9	3.9	7.2	3.6

② 地域活動への参加状況

地域活動への参加状況は、いずれの活動も「参加していない」が最も多く、5割から6割を占めている。

■地域活動への参加状況

(単位:%)

区 分 (n=2,707)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	1.1	2.0	1.6	3.7	3.8	66.3	21.5
スポーツ関係のグループやクラブ	3.4	7.2	5.2	3.4	3.1	58.7	19.1
趣味関係のグループ	1.8	4.8	5.8	10.3	5.2	53.9	18.1
学習・教養サークル	0.6	1.1	1.6	3.7	3.2	66.8	23.0
介護予防のための通いの場	2.3	3.4	4.2	4.4	2.8	64.5	18.4
老人クラブ	0.6	0.8	0.8	4.2	5.9	68.6	19.0
町会・自治会	0.9	0.6	1.3	6.1	11.8	59.9	19.4
収入のある仕事	17.4	5.5	1.2	2.0	1.2	53.2	19.5

(3) 介護予防のための教室や活動への参加頻度

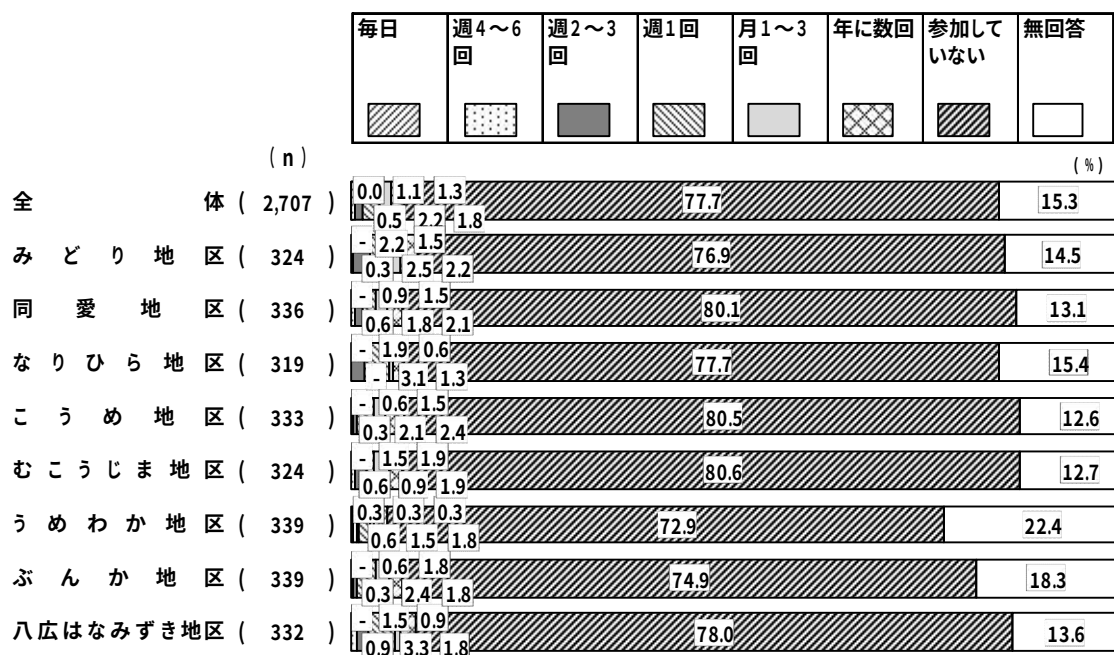
① 区主催による運動を主とした介護予防事業

(げんき応援教室、元気もりもり教室、すみだテイクテン教室、街なか体操教室等)

区主催による運動を主とした介護予防事業への参加頻度は、「参加していない」が77.7%と最も多く、次いで「週1回」が2.2%、「年に数回」が1.8%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて八広はなみずき地区では「週1回」(3.3%)がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度 (区主催による運動を主とした介護予防事業)

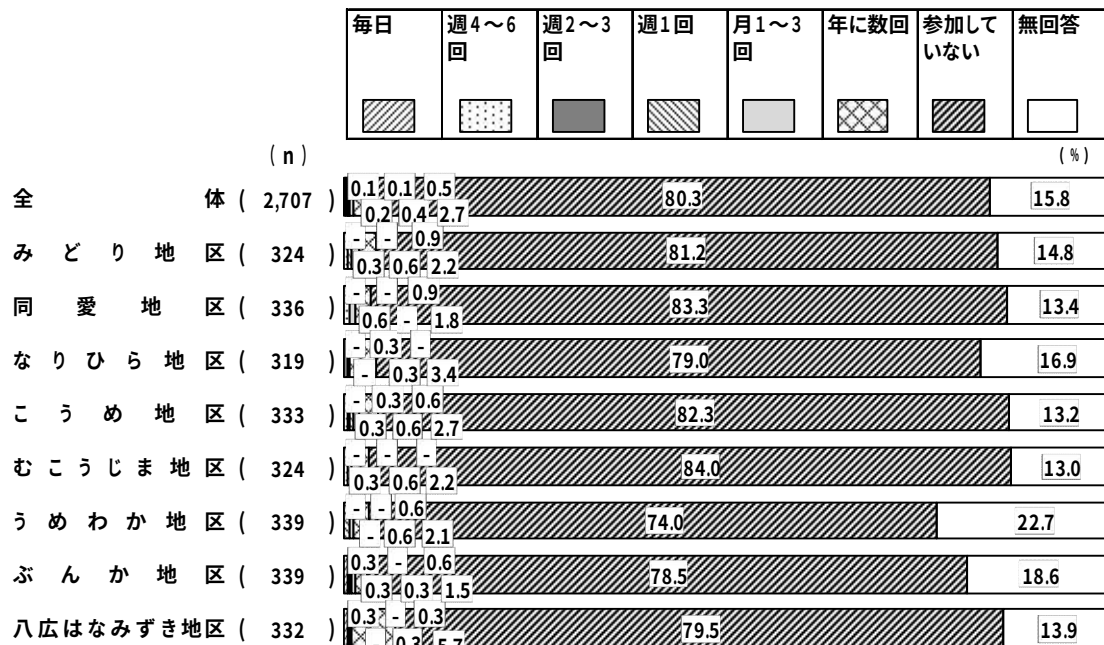


② 区主催による講義を主とした介護予防事業（尿もれ予防、腰痛・膝痛予防、フットケア、口腔ケア等）

区主催による講義を主とした介護予防事業への参加頻度は、「参加していない」が80.3%と最も多く、次いで「年に数回」が2.7%、「月1～3回」が0.5%となっている。

地区別に見ると、他の地区と比べて八広はなみずき地区では「年に数回」（5.7%）がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度（区主催による講義を主とした介護予防事業）



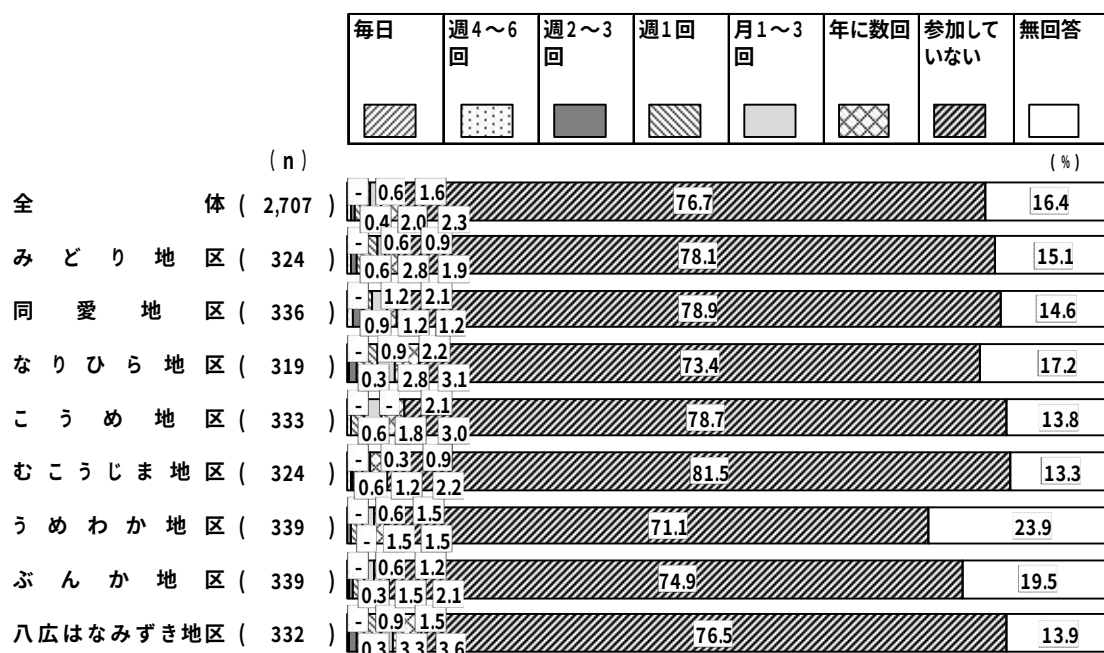
③ 区内各施設で開催される体操等、介護予防に資すると考えられる教室

区内各施設で開催される体操等、介護予防に資すると考えられる教室への参加頻度は、「参加していない」が76.7%と最も多く、次いで「年に数回」が2.3%、「週1回」が2.0%となっている。

地区別に見ると、他の地区と比べてうめわか地区では「参加していない」（71.1%）がやや低い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度

（区内各施設で開催される体操等、介護予防に資すると考えられる教室）

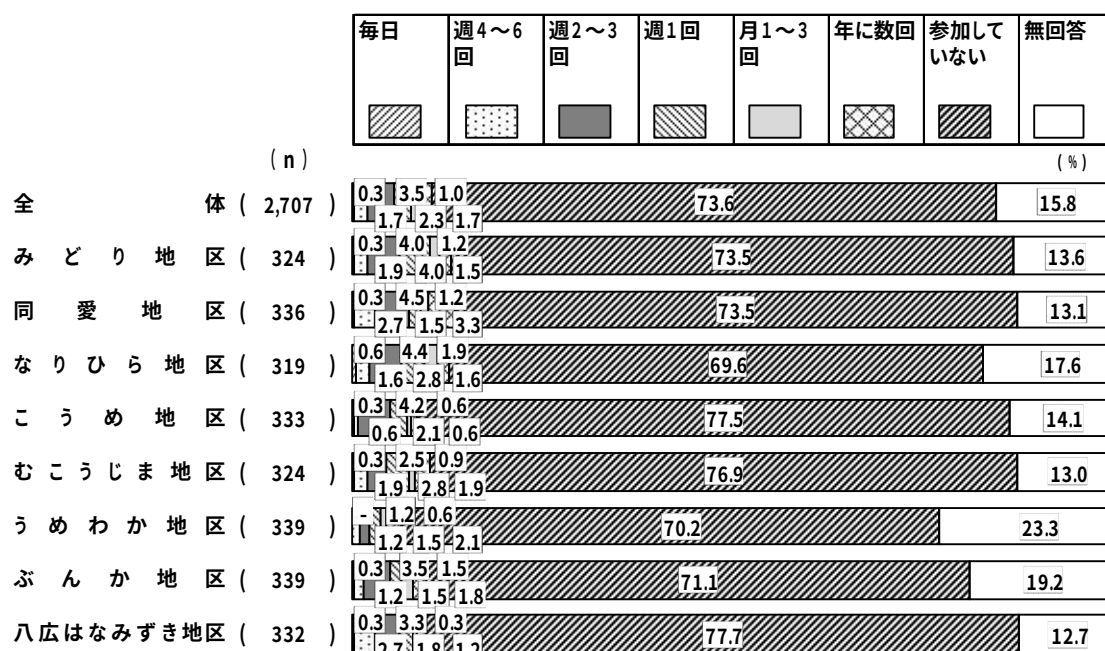


④ フィットネス、スポーツジム等民間施設の利用

フィットネス、スポーツジム等民間施設の利用への参加頻度は、「参加していない」が73.6%と最も多く、「週2～3回」が3.5%、「週1回」が2.3%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区、なりひら地区では「週2～3回」（それぞれ4.5%、4.4%）がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度（フィットネス、スポーツジム等民間施設の利用）

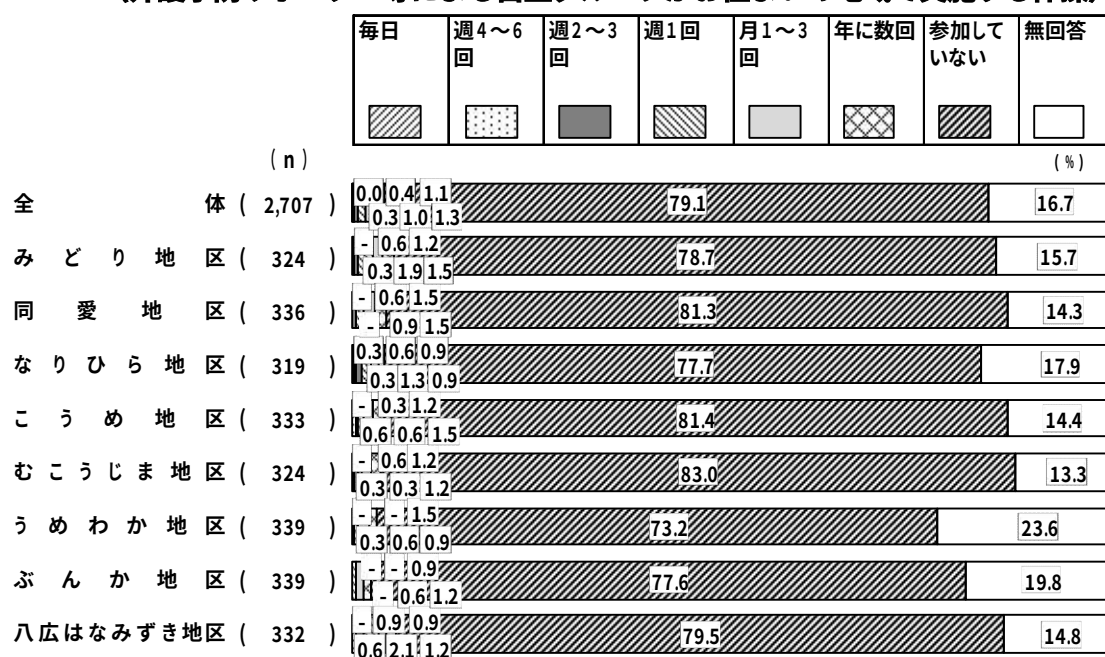


⑤ 介護予防サポーター等による自主グループがお住まいの地域で実施する体操

介護予防サポーター等による自主グループが地域で実施する体操への参加頻度は、「参加していない」が79.1%と最も多く、次いで「年に数回」が1.3%、「月1～3回」が1.1%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてうめわか地区では「参加していない」（73.2%）がやや低い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度 (介護予防サポーター等による自主グループがお住まいの地域で実施する体操)

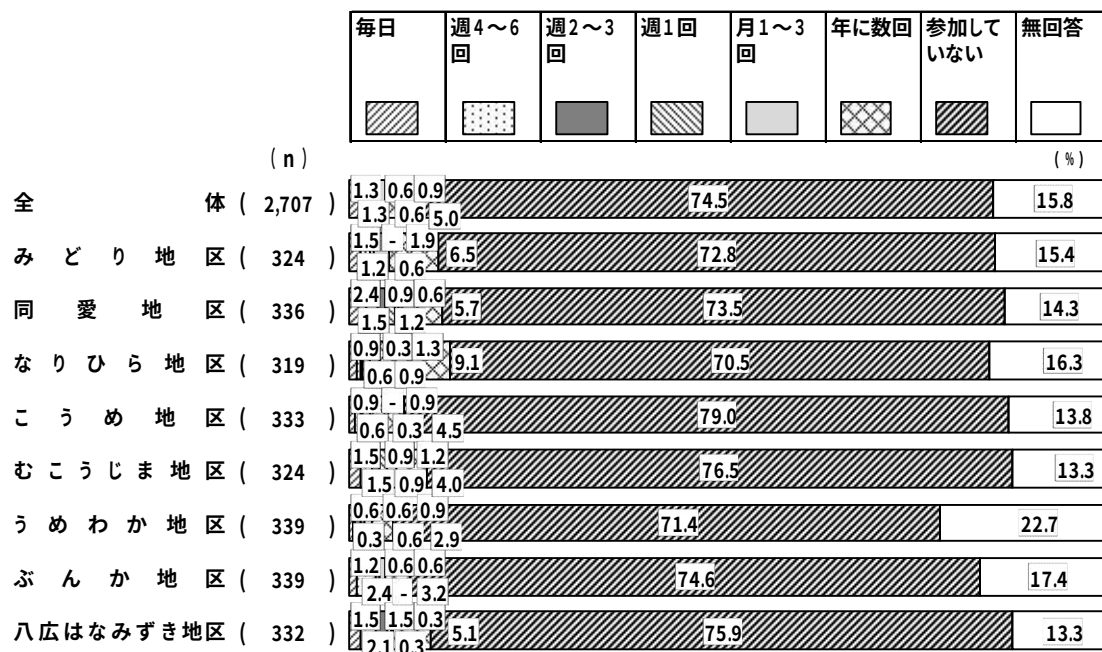


⑥ 町会などお住まいの地域で行っている体操等（ラジオ体操等）

町会などお住まいの地域で行っている体操への参加頻度は、「参加していない」が 74.5%と最も多く、次いで「年に数回」が 5.0%、「毎日」、「週 4～6 回」が 1.3%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてなりひら地区では「年に数回」（9.1%）がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度
(町会などお住まいの地域で行っている体操等)

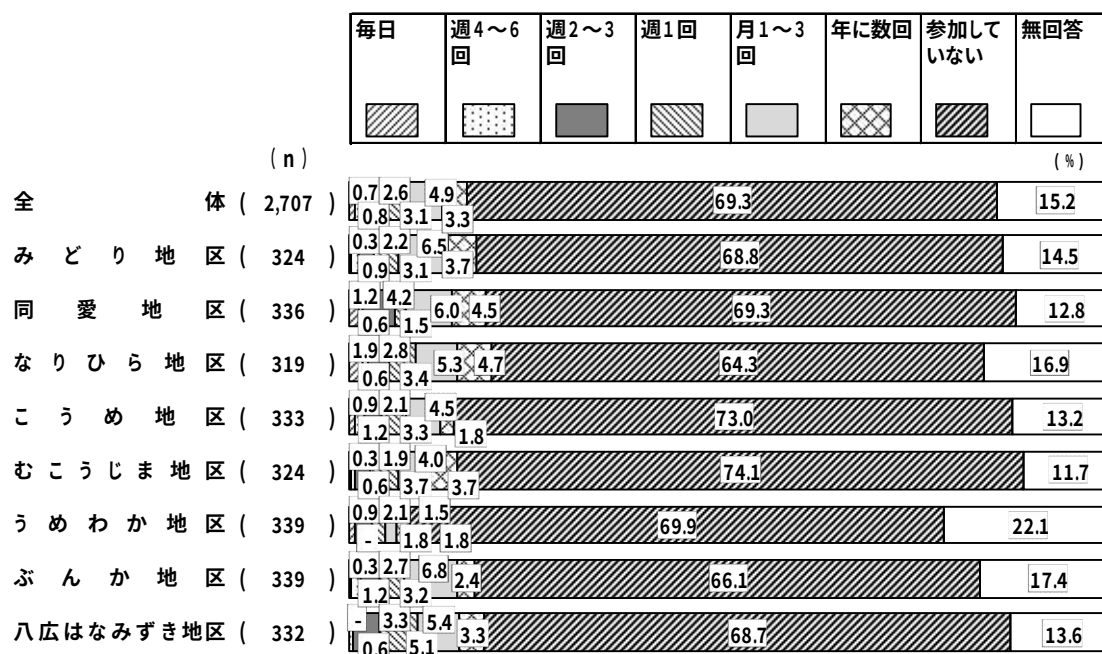


⑦ 趣味活動への参加（ウォーキング、カラオケ、朗読、ゲートボール、手芸、囲碁や将棋等）

趣味活動への参加頻度は、「参加していない」が 69.3%と最も多く、次いで「月 1～3 回」が 4.9%、「年に数回」が 3.3%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてみどり地区、ぶんか地区では「月 1～3 回」（それぞれ、6.5%、6.8%）がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度
(趣味活動への参加)

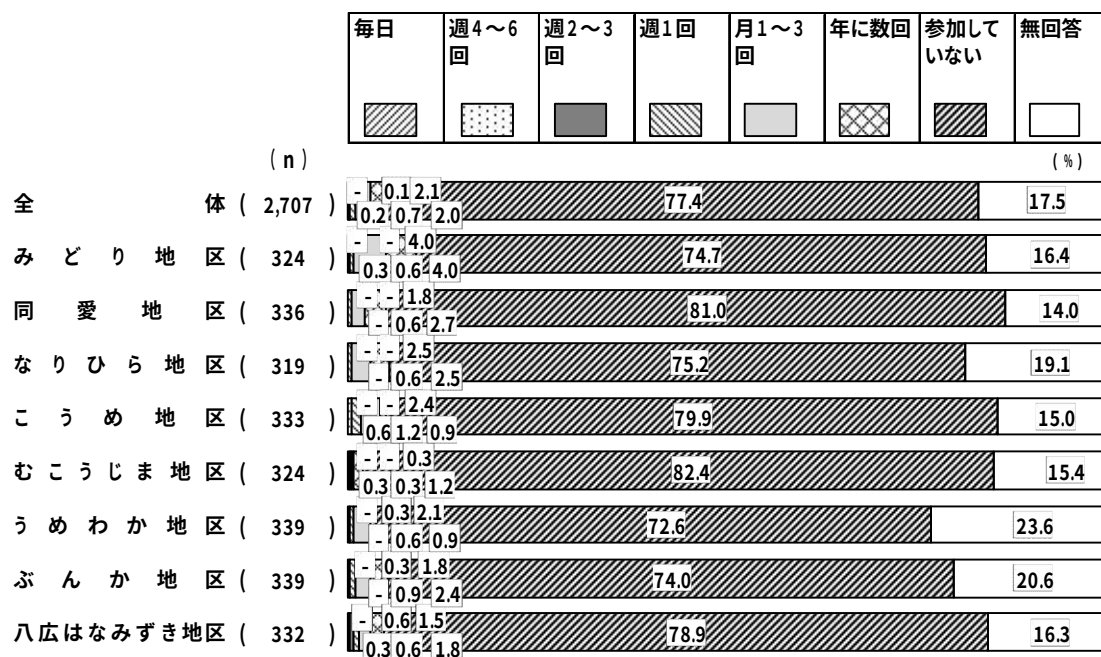


⑧ サロン活動（茶話会）への参加

サロン活動（茶話会）への参加頻度は、「参加していない」が77.4%と最も多く、次いで「月1～3回」が2.1%、「年に数回」が2.0%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてみどり地区では「月1～3回」（4.0%）がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度
（サロン活動（茶話会）への参加）

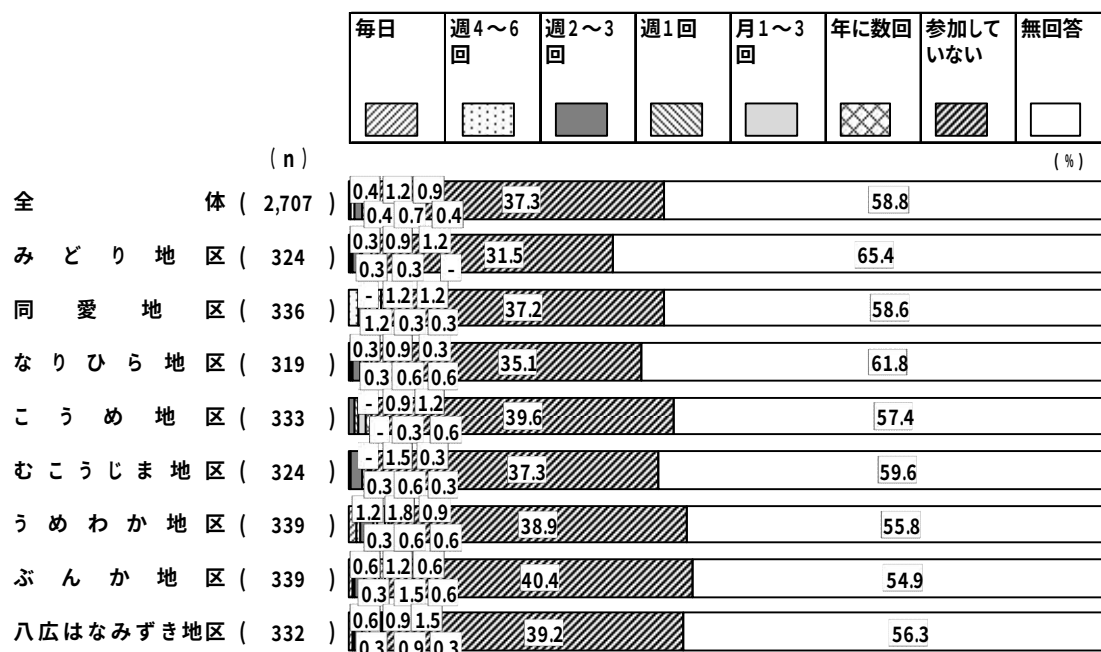


⑨ その他

その他への参加頻度は、「参加していない」が37.3%と最も多く、次いで「週2～3回」が1.2%、「月1～3回」が0.9%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてぶんか地区では「参加していない」（40.4%）がやや多い。

■介護予防のための教室や活動への参加頻度（その他）



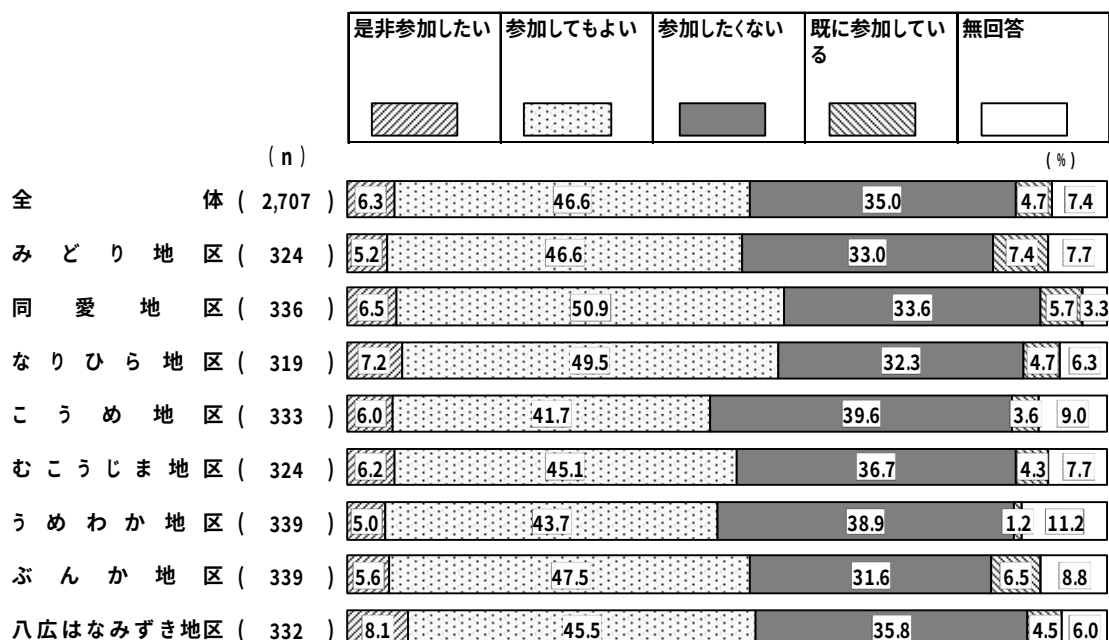
(4) 地域づくりへの参加意向

① 参加者としての参加意向

地域づくりに参加者としての参加意向は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と回答した人を合わせた“参加してもよい”が52.9%、「参加したくない」が35.0%となっている。

地区別にみると、同愛地区、なりひら地区で“参加してもよい”（それぞれ 57.4%、56.7%）が多い。

■地域づくりへの参加者としての参加意向

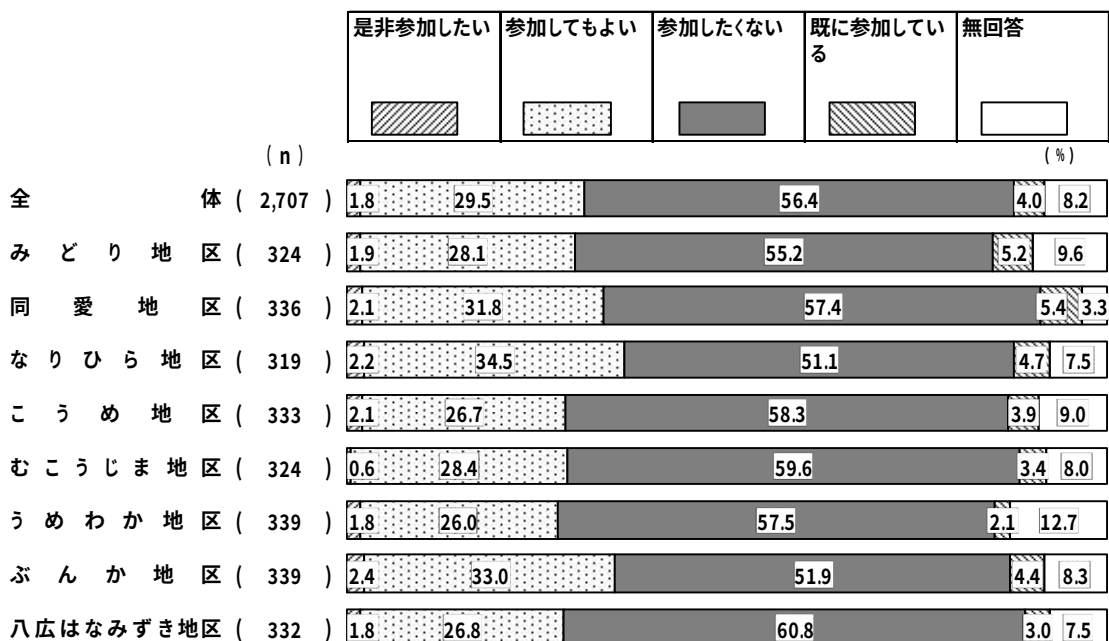


② 世話役としての参加意向

地域づくりに世話役としての参加意向は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と回答した人を合わせた“参加してもよい”が31.3%、「参加したくない」が56.4%となっている。

地区別にみると、なりひら地区、ぶんか地区で“参加してもよい”（それぞれ 36.7%、35.4%）が多い。

■地域づくりへの世話役としての参加意向

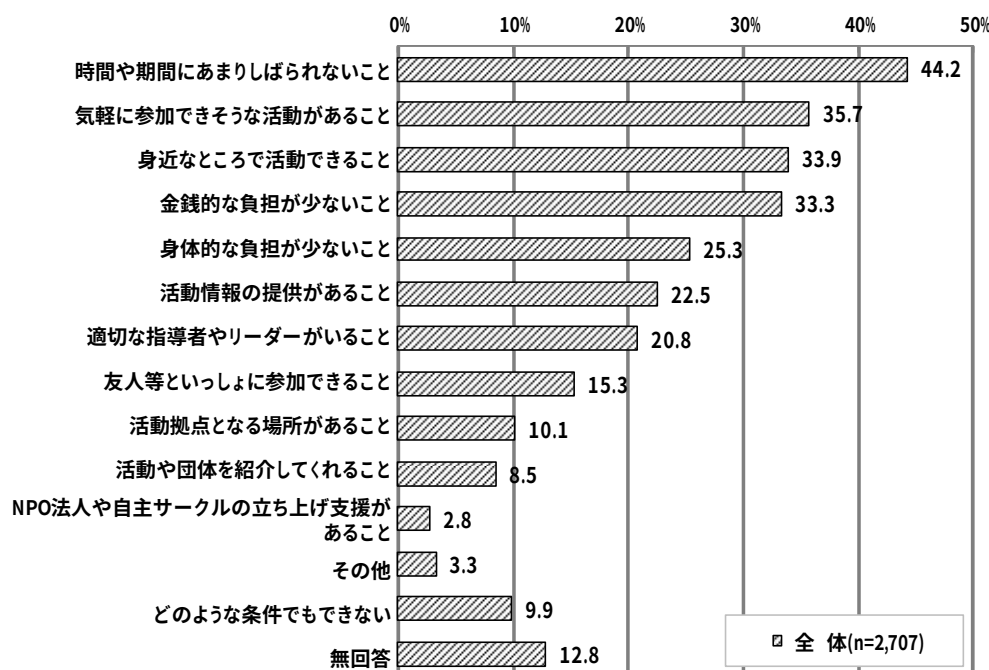


③ 地域活動や支え合いの活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件

地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまりしぼられないこと」が44.2%と最も多く、次いで「気軽に参加できそうな活動があること」が35.7%、「身近なところで活動できること」が33.9%、「金銭的な負担が少ないこと」が33.3%、「身体的な負担が少ないこと」が25.3%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてなりひら地区では「時間や期間にあまりしぼられないこと」(48.6%)がやや多い。

■地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件（複数回答）



■地域活動や支え合い活動に参加する場合の参加・活動しやすい条件（地区別）

(単位：%)

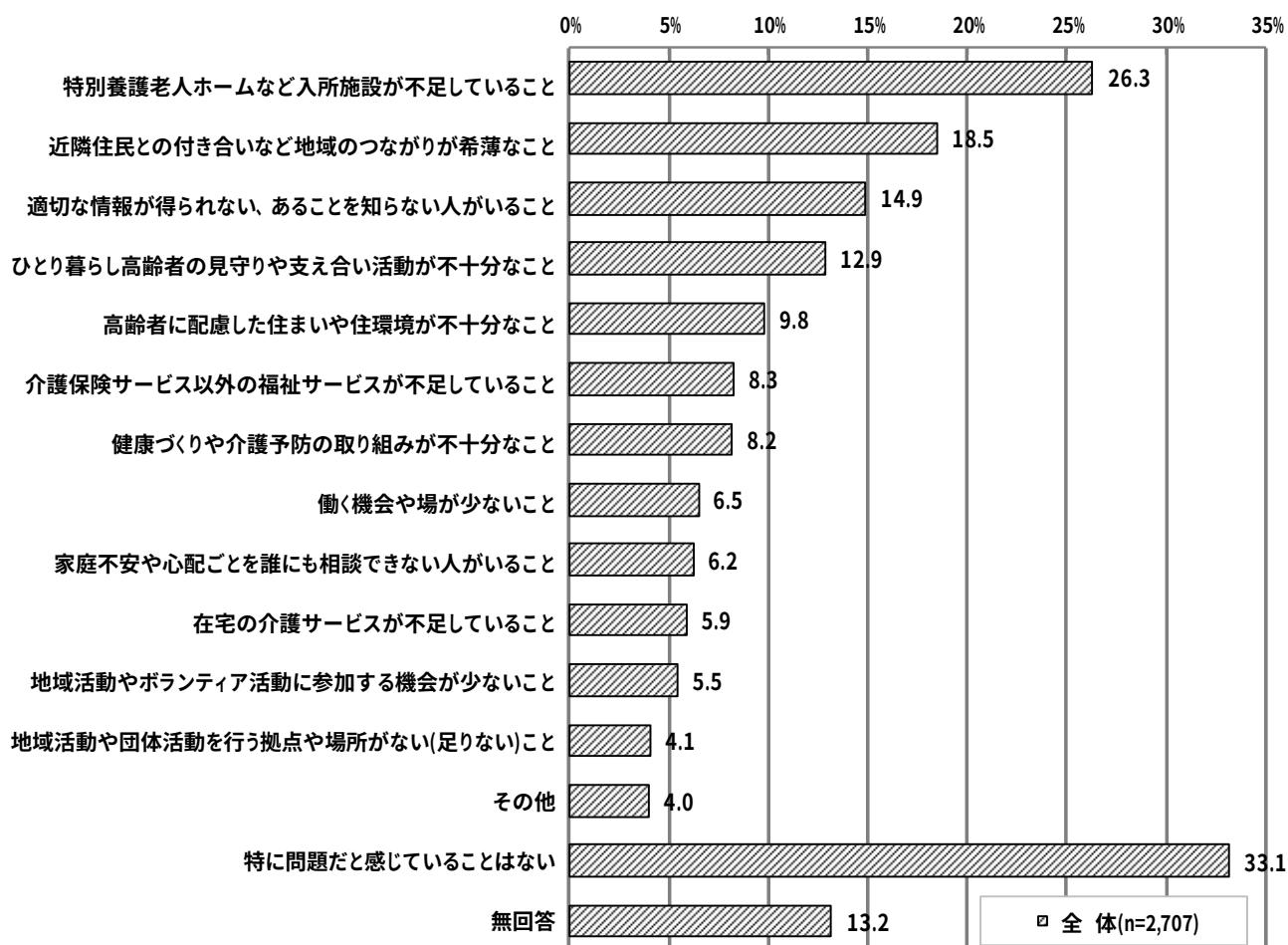
区 分	全 体	みどり	同 愛	なりひら	こうめ	むこうじま	うめわか	ぶんか	八広 はなみずき
回答者数(人)	2,707	324	336	319	333	324	339	339	332
活動情報の提供があること	22.5	24.7	21.1	27.3	18.6	22.2	17.7	22.7	23.8
活動や団体を紹介してくれること	8.5	8.6	8.3	11.3	8.4	9.9	4.7	7.7	9.3
友人等といっしょに参加できること	15.3	15.1	13.7	20.7	15.9	13.3	14.2	13.9	16.6
気軽に参加できそうな活動があること	35.7	38.0	33.9	39.2	35.1	29.9	32.4	39.2	36.1
自主サークル等の立ち上げ支援があること	2.8	3.4	2.4	3.4	2.7	2.2	3.5	1.5	3.6
活動拠点となる場所があること	10.1	10.2	9.5	13.5	9.6	7.4	7.1	10.3	12.7
時間や期間にあまりしぼられないこと	44.2	42.0	44.3	48.6	47.4	46.0	39.8	39.2	44.3
身近なところで活動できること	33.9	33.0	33.0	35.7	32.4	31.5	31.0	35.4	37.0
適切な指導者やリーダーがいること	20.8	21.0	22.0	21.3	21.0	15.1	20.9	18.0	24.1
身体的な負担が少ないこと	25.3	24.1	22.0	31.0	22.8	27.2	23.6	23.3	26.5
金銭的な負担が少ないこと	33.3	32.4	31.3	33.2	28.5	32.4	34.5	35.7	35.8
その他	3.3	2.5	2.7	4.4	2.7	3.4	5.6	2.7	3.0
どのような条件でもできない	9.9	11.1	10.7	8.5	11.1	9.9	9.4	9.4	9.3
無回答	12.8	10.8	13.4	10.7	13.2	13.3	16.5	14.7	10.8

(5) 地域で問題だと感じていること

地域で問題だと感じていることは、「特に問題だと感じていることはない」が約3割を占めている中で、「特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること」が26.3%と最も多く、次いで「近隣住民との付き合いなど地域のつながりが希薄なこと」が18.5%、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいること」が14.9%、「ひとり暮らし高齢者の見守りや支え合い活動が不十分なこと」が12.9%、「高齢者に配慮した住まいや住環境が不十分なこと」が9.8%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてなりひら地区では「特に問題だと感じていることはない」(38.2%)がやや多い。

■地域で問題だと感じていること（複数回答）



■地域で問題だと感じていること（地区別）

（単位：％）

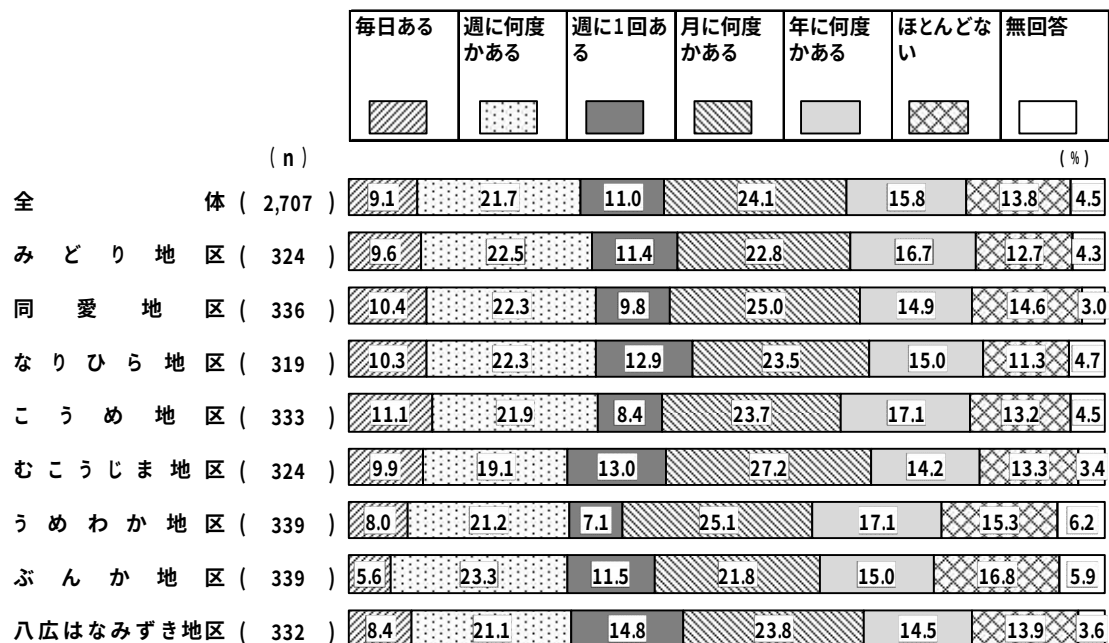
区 分	全 体	み ど り	同 愛	な り ひ ら	こ う め	む こ う じ ま	う め わ か	ぶ ん か	八 広 は な み ず き
回答者数(人)	2,707	324	336	319	333	324	339	339	332
健康づくり等の取り組みが不十分なこと	8.2	5.6	7.7	7.8	7.8	8.6	8.6	8.6	10.5
地域活動等に参加する機会が少ないこと	5.5	5.2	4.5	6.0	4.5	6.8	3.8	6.2	5.4
働く機会や場が少ないこと	6.5	4.9	4.5	7.2	5.4	7.4	5.9	7.7	9.0
在宅の介護サービスが不足していること	5.9	3.4	6.0	5.0	5.1	5.9	6.8	6.8	6.6
福祉サービスが不足していること	8.3	6.5	7.4	5.3	7.8	7.4	10.6	8.6	11.1
見守りや支え合い活動が不十分なこと	12.9	10.2	8.3	9.4	15.3	15.4	13.6	13.0	16.6
地域のつながりが希薄なこと	18.5	17.9	16.4	16.3	15.3	19.8	19.5	19.8	20.8
心配ごと等を相談できない人がいること	6.2	5.2	3.3	5.3	5.7	8.0	8.3	6.5	7.5
適切な情報が得られない人がいること	14.9	9.6	14.3	14.4	15.0	15.1	15.9	14.2	19.3
高齢者に配慮した住まいが不十分なこと	9.8	6.2	10.4	7.8	10.8	12.7	10.0	9.1	12.0
入所施設が不足していること	26.3	25.3	25.9	26.6	26.1	25.9	26.3	26.3	26.8
地域活動等を行う拠点や場所がないこと	4.1	5.9	2.4	5.0	5.1	4.3	3.2	3.5	3.3
その他	4.0	4.6	4.5	3.4	5.7	1.9	4.1	3.8	3.6
特に問題だと感じていることはない	33.1	34.6	36.9	38.2	33.6	31.8	26.3	31.6	32.5
無回答	13.2	12.3	11.6	12.9	13.8	13.6	16.5	13.9	11.1

(6) 友人・知人

① 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度は、「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた“頻繁に会っている”人が30.8%、「月に何度かある」が24.1%、「年に何度かある」が15.8%、「ほとんどない」が13.8%となっている。地区別にみると、他の地区と比べてぶんか地区では「ほとんどない」（16.8%）がやや多い。

■友人・知人と会う頻度

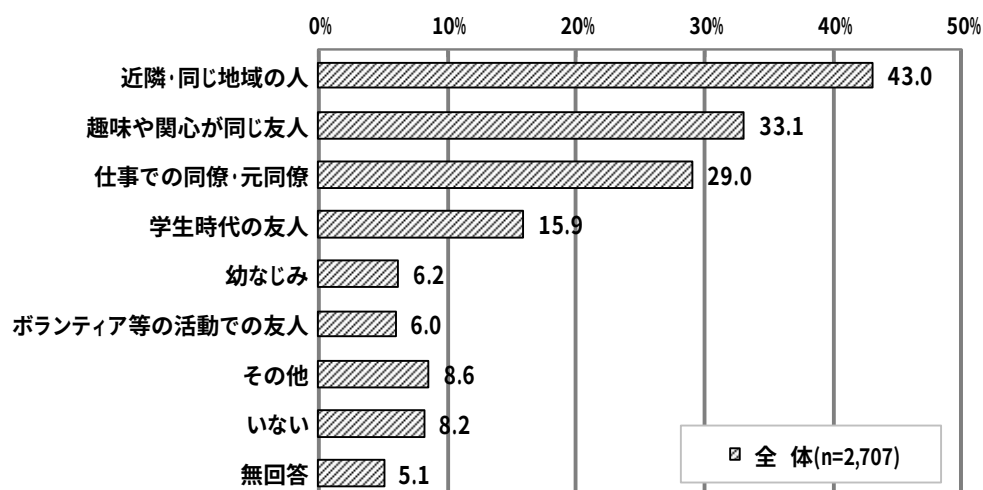


② よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」が43.0%で最も多く、次いで「趣味や関心と同じ友人」が33.1%、「仕事での同僚・元同僚」が29.0%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べて同愛地区では「趣味や関心と同じ友人」（37.2%）、八広はなみずき地区では「近所・同じ地域の人」（50.3%）がそれぞれ多い。

■よく会う友人・知人との関係（複数回答）



(単位: %)

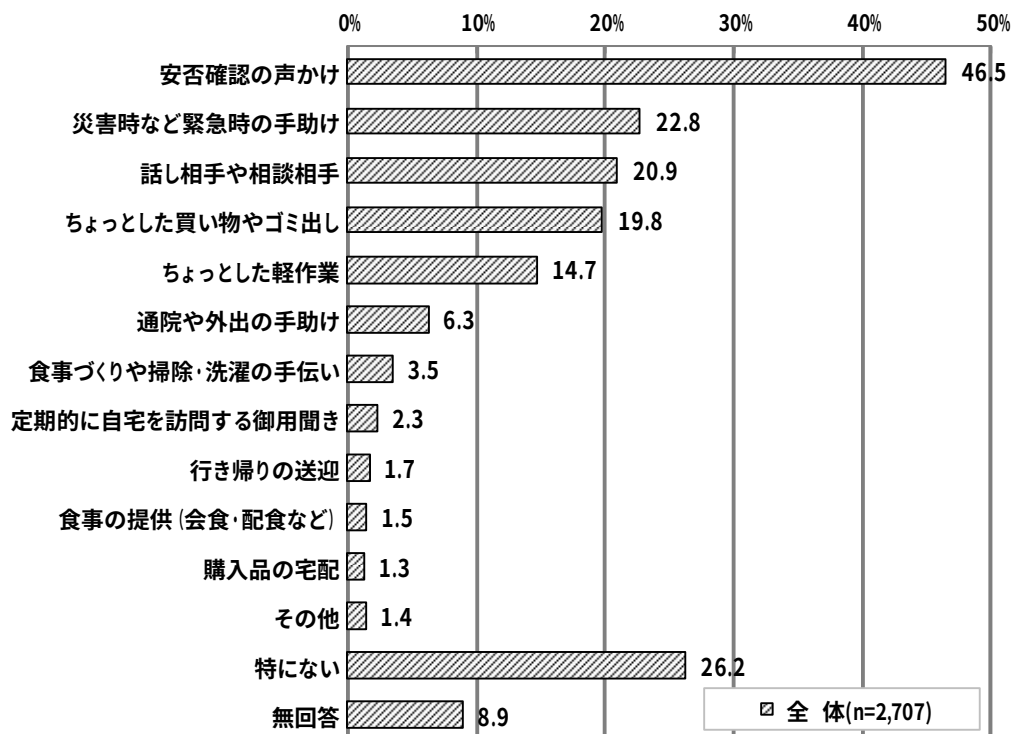
区 分	回答者数 (人)	近所・同 じ地域の 人	幼なじみ	学 生 時 代 の 友 人	仕 事 で の 同 僚 ・ 元 同 僚	趣 味 や 関 心 が 同 じ 友 人	ボラン ティア等 の 活 動 で の 友 人	その他	いない	無回答
全 体	2,707	43.0	6.2	15.9	29.0	33.1	6.0	8.6	8.2	5.1
みどり	324	45.1	5.6	18.8	24.1	33.0	7.7	10.8	8.0	4.3
同 愛	336	42.6	6.3	17.9	29.2	37.2	5.4	6.5	9.2	4.5
なりひら	319	42.6	6.6	14.4	29.5	34.8	6.0	10.0	5.3	6.3
こうめ	333	42.6	6.0	16.8	31.2	33.9	8.1	6.0	7.8	4.2
むこうじま	324	38.9	6.2	17.9	29.6	30.2	4.0	10.8	8.0	4.0
うめわか	339	41.6	6.5	14.5	30.1	28.6	4.7	6.5	9.1	7.4
ぶんか	339	41.3	6.8	12.4	31.3	32.7	5.9	8.6	8.6	6.8
八広はなみずき	332	50.3	5.4	13.6	25.6	32.8	4.8	9.3	8.7	3.6

(7) 地域の支え合いとして自分自身ができること

地域の支え合いとして自分自身ができることは、「安否確認の声かけ」が46.5%で最も多く、次いで「災害時など緊急時の手助け」が22.8%、「話し相手や相談相手」が20.9%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が19.8%、「ちょっとした軽作業」が14.7%となっている。

地区別にみると、同愛地区では「災害時など緊急時の手助け」（28.0%）、なりひら地区、こうめ地区では「安否確認の声かけ」（それぞれ50.2%、51.1%）、ぶんか地区、八広はなみずき地区では「ちょっとした買い物やゴミ出し」（それぞれ24.5%、22.6%）が多い。

■地域の支え合いとして自分自身ができること（複数回答）



(単位：%)

区 分	全 体	みどり	同 愛	なりひら	こうめ	むこうじま	うめわか	ぶんか	八広 はなみずき
回答者数(人)	2,707	324	336	319	333	324	339	339	332
安否確認の声かけ	46.5	49.4	41.7	50.2	51.1	47.5	42.8	41.3	46.1
ちょっとした買い物やゴミ出し	19.8	17.6	17.3	18.8	19.8	21.0	17.4	24.5	22.6
食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	3.5	2.5	3.0	3.4	5.1	3.4	2.9	5.0	3.0
食事の提供(会食・配食など)	1.5	1.9	0.9	1.6	1.8	1.5	1.2	0.3	2.7
通院や外出の手助け	6.3	5.6	6.5	6.9	5.1	8.0	4.7	8.0	5.4
ちょっとした軽作業	14.7	14.8	11.9	13.8	13.5	17.0	14.2	18.3	13.6
話し相手や相談相手	20.9	19.1	20.8	20.1	23.7	21.0	18.3	19.5	23.8
災害時など緊急時の手助け	22.8	22.5	28.0	23.2	24.9	20.4	23.3	18.3	19.3
行き帰りの送迎	1.7	1.5	3.0	1.3	1.8	1.2	1.5	1.5	1.8
購入品の宅配	1.3	0.6	0.3	1.3	0.9	1.5	0.9	2.4	2.4
定期的に自宅を訪問する御用聞き	2.3	0.6	0.9	2.2	1.8	4.3	4.1	2.1	2.4
その他	1.4	1.2	0.9	0.9	2.1	1.9	1.2	1.2	1.8
特にない	26.2	26.9	28.9	24.8	23.7	27.5	26.3	28.3	25.6
無回答	8.9	7.1	8.9	7.8	9.0	6.8	13.9	10.0	7.8

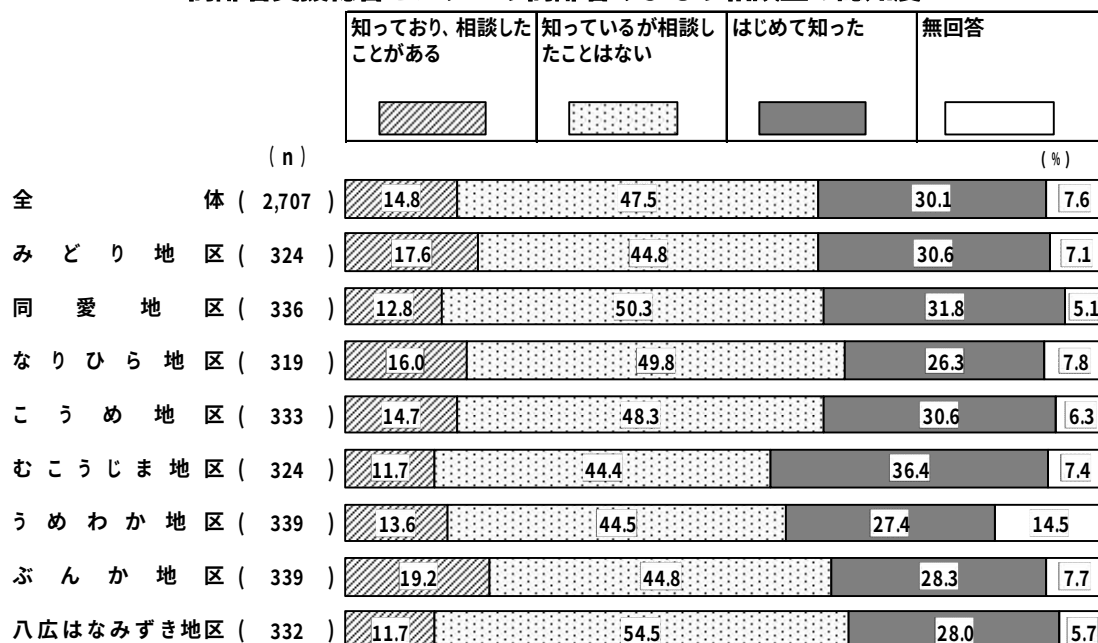
7. 今後の生活について

(1) 高齢者支援総合センターや高齢者みまもり相談室の認知度

高齢者支援総合センターや高齢者みまもり相談室の認知度は、「知っており、相談したことがある」と「知っているが相談したことはない」を合わせた「知っている」が62.3%、「はじめて知った」が30.1%となっている。

地区別に見ると、他の地区と比べて八広はなみずき地区では、「知っている」(66.2%)、むこうじま地区では「はじめて知った」(36.4%)が多い。

■高齢者支援総合センターや高齢者みまもり相談室の認知度

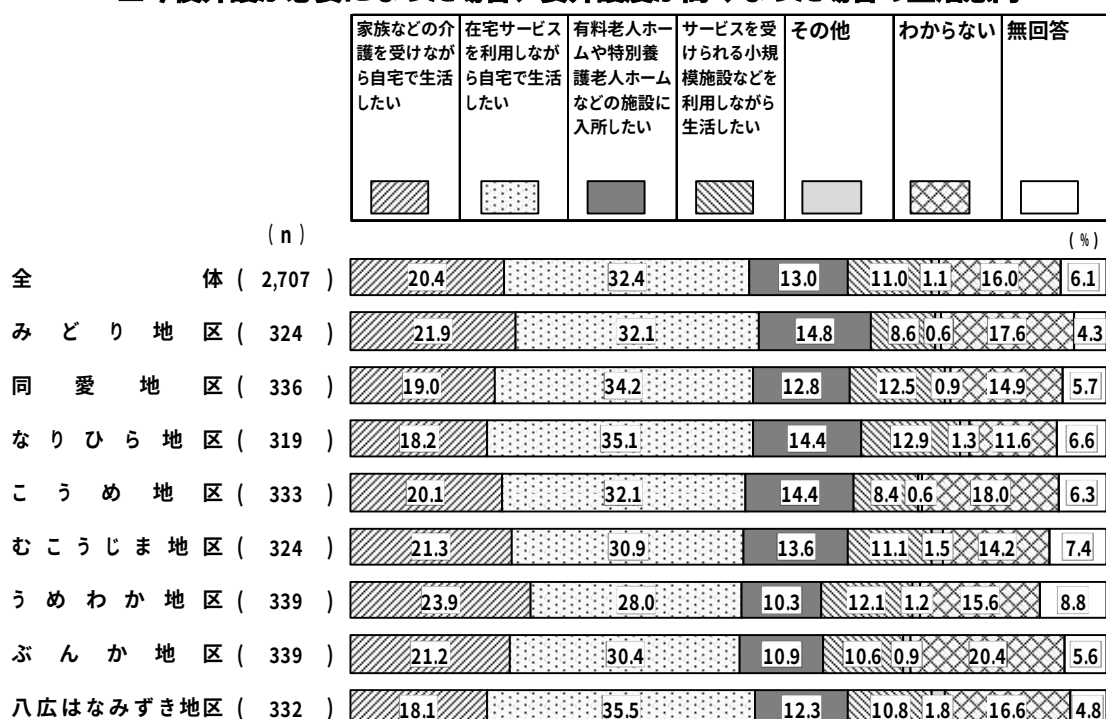


(2) 今後介護が必要になった場合、要介護度が高くなった場合の生活意向

今後介護が必要になった場合、要介護度が高くなった場合の生活意向について、「在宅サービスを利用しながら自宅で生活したい」が32.4%と最も多く、次いで「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」が20.4%、「有料老人ホームや特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」が13.0%、「サービスを受けられる小規模施設などを利用しながら生活したい」が11.0%となっている。

地区別に見ると、他の地区に比べ、なりひら地区、八広はなみずき地区で「在宅サービスを利用しながら自宅で生活したい」(それぞれ35.1%、35.5%)が多い。

■今後介護が必要になった場合、要介護度が高くなった場合の生活意向



(3) 介護予防・日常生活支援総合事業

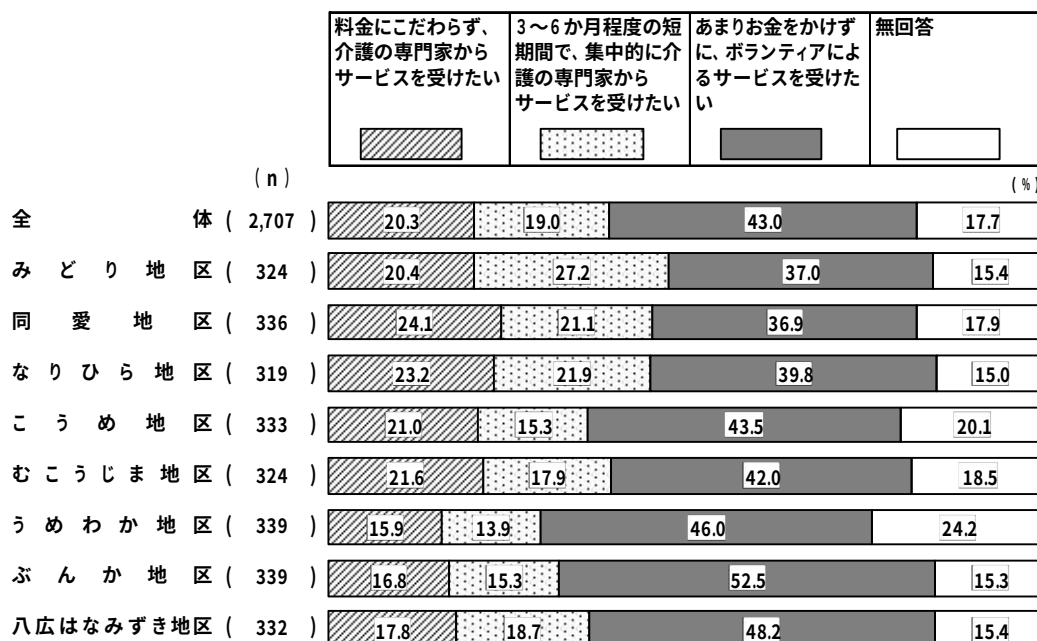
① 介護予防・日常生活支援総合事業で受けたサービス

ア. 自宅で介護を受けるサービス

介護予防・日常生活支援総合事業のうち、自宅で介護を受けるサービスについては、「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」が43.0%で最も多く、次いで「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」が20.3%、「3～6か月程度の短期間で、集中的に介護の専門家からサービスを受けたい」が19.0%となっている。

地区別に見ると、他の地区と比べてぶんか地区では「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」(52.5%)が多い。

■自宅で介護を受けるサービス

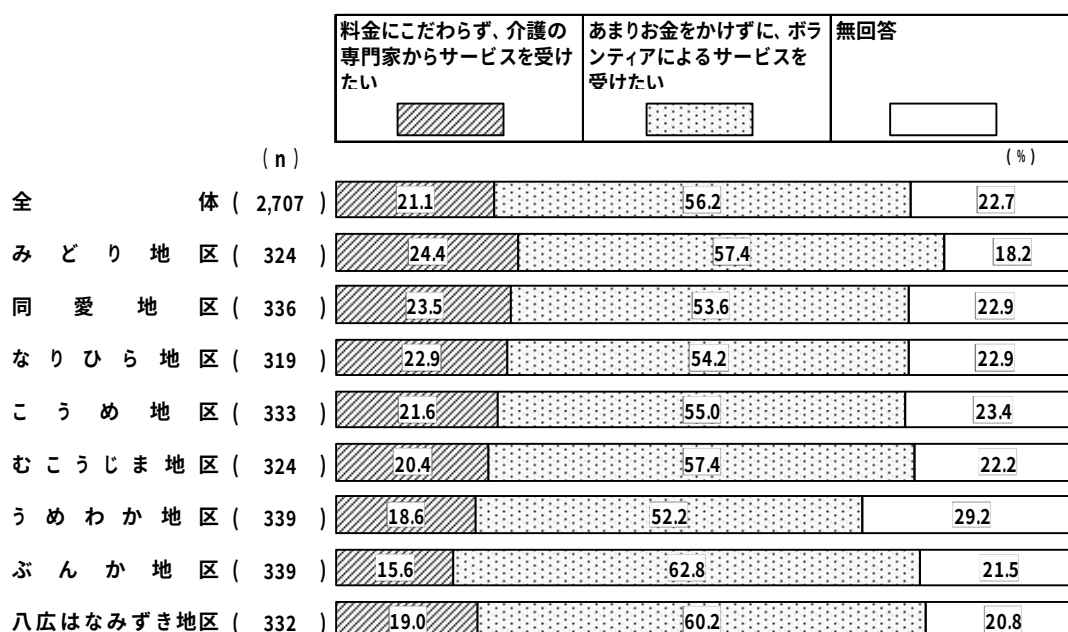


イ. 自宅で掃除・調理・洗濯を手伝ってもらうサービス

介護予防・日常生活支援総合事業のうち、自宅で掃除・調理・洗濯を手伝ってもらうサービスについては、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」が21.1%、「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」が56.2%となっている。

地区別に見ると、他の地区と比べてぶんか地区では「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」(62.8%)が多い。

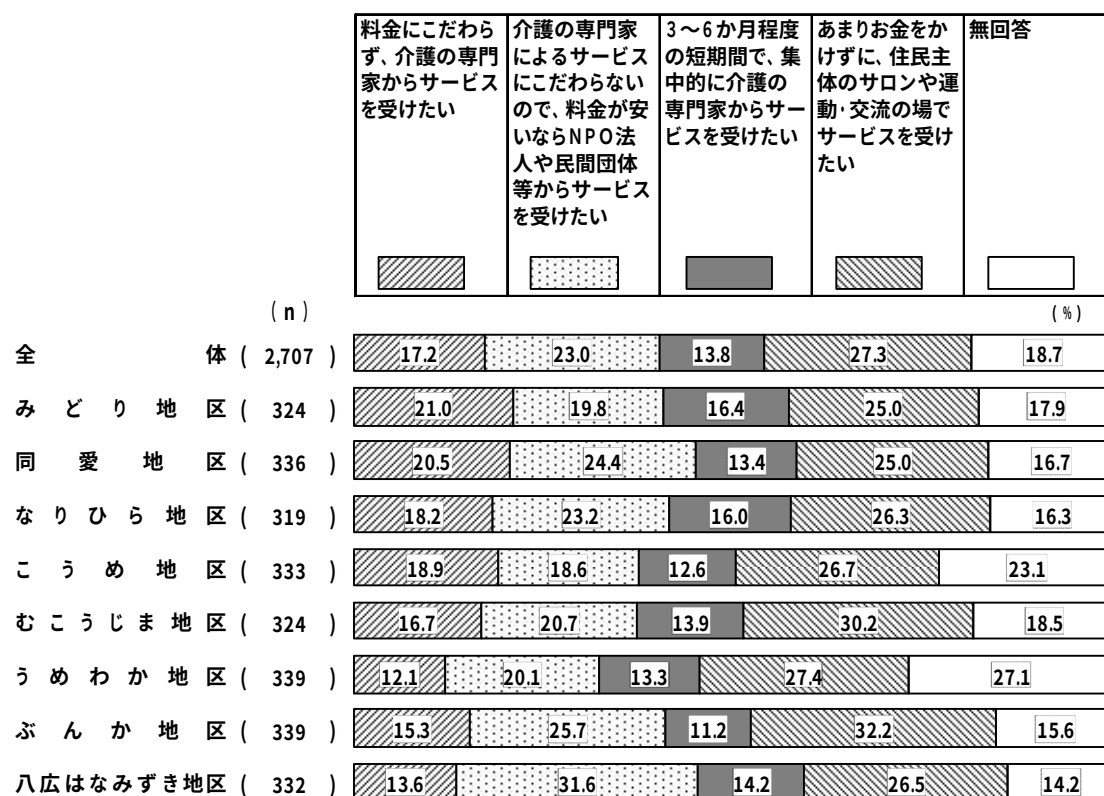
■自宅で掃除・調理・洗濯を手伝ってもらうサービス



ウ. デイサービス等に通い、食事や入浴、衰えた運動能力等の回復や口の中のケア等を行うサービス
介護予防・日常生活支援総合事業のうち、デイサービス等に通い、食事や入浴、衰えた運動能力等の回復や口の中のケア等を行うサービスについては、「あまりお金をかけずに、住民主体のサロンや運動・交流の場でサービスを受けたい」が27.3%で最も多く、次いで「介護の専門家によるサービスにこだわらないので、料金が安いなら、NPO法人や民間団体等からサービスを受けたい」が23.0%、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」が17.2%、「3～6か月程度の短期間で、集中的に介護の専門家からサービスを受けたい」が13.8%となっている。

地区別にみると、ぶんか地区で「あまりお金をかけずに、住民主体のサロンや運動・交流の場でサービスを受けたい」（32.2%）が多い。

■デイサービス等に通い、食事や入浴、衰えた運動能力等の回復や口の中のケア等を行うサービス

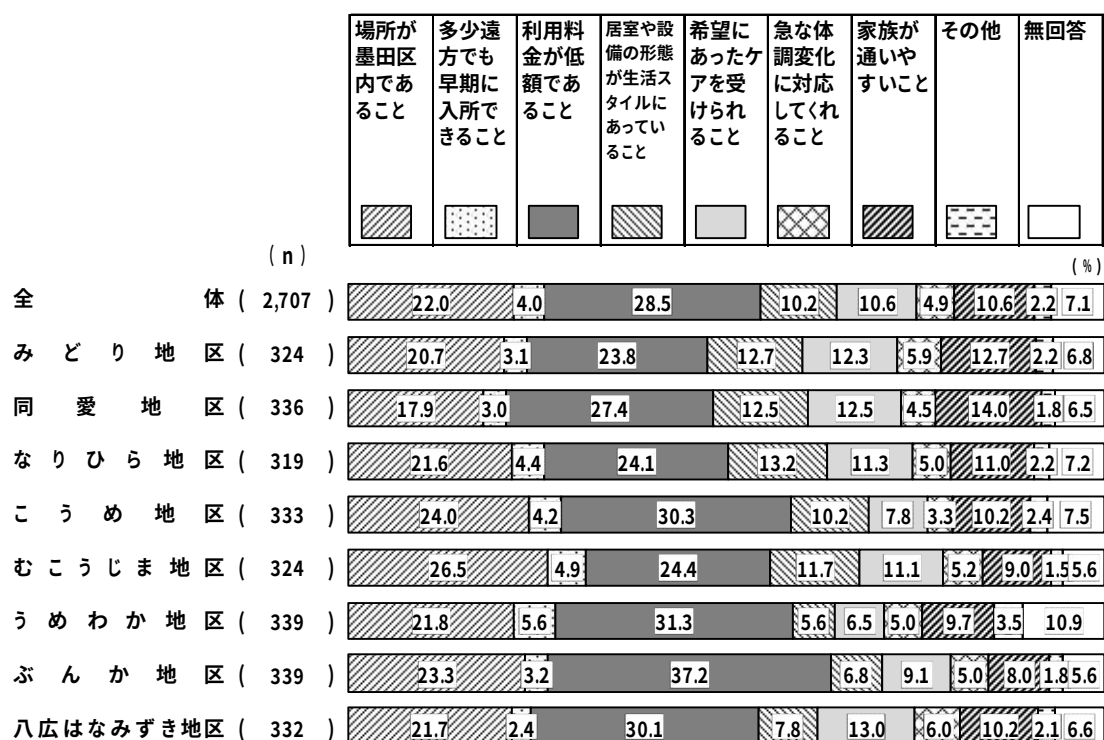


(4) 特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合の重要視する点

特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合の重要視する点については、「利用料金が低額であること」が28.5%と最も多く、次いで「場所が墨田区内であること」が22.0%、「希望にあったケアを受けられること」が10.2%、「家族が通いやすいこと」が10.6%、「居室や設備の形態が生活スタイルにあっていること」が10.2%となっている。

地区別にみると、むこうじま地区で「場所が墨田区内であること」(26.5%)が多い。

■特別養護老人ホームなどの施設に入所することになった場合の重要視する点

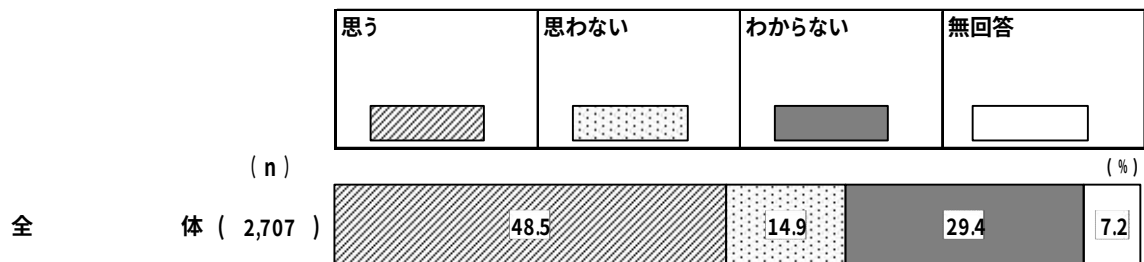


(5) 在宅療養

① 在宅療養の希望の有無

長期の療養が必要になった場合の在宅療養の希望の有無は、「思う」が48.5%、「思わない」が14.9%、「わからない」が29.4%となっている。

■在宅療養の希望の有無

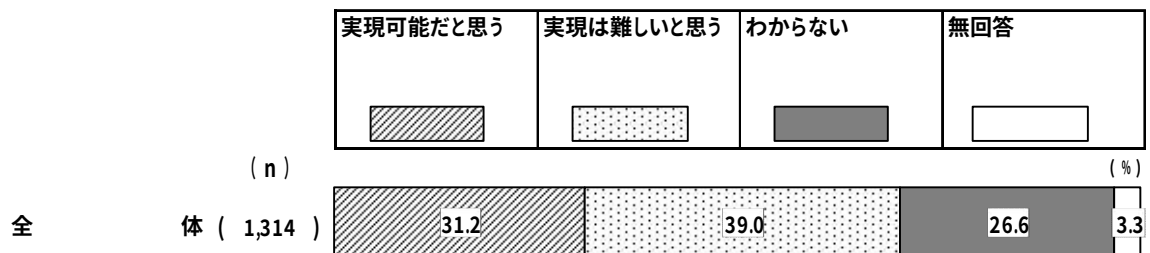


② 在宅療養の実現可能性と実現が難しいと思う理由

ア. 在宅療養の実現可能性

理想として自宅で療養を続けたいと「思う」と回答した人の自宅での療養の実現可能性は、「実現可能だと思う」が31.2%、「実現は難しいと思う」が39.0%、「わからない」が26.6%となっている。

■在宅療養の実現可能性

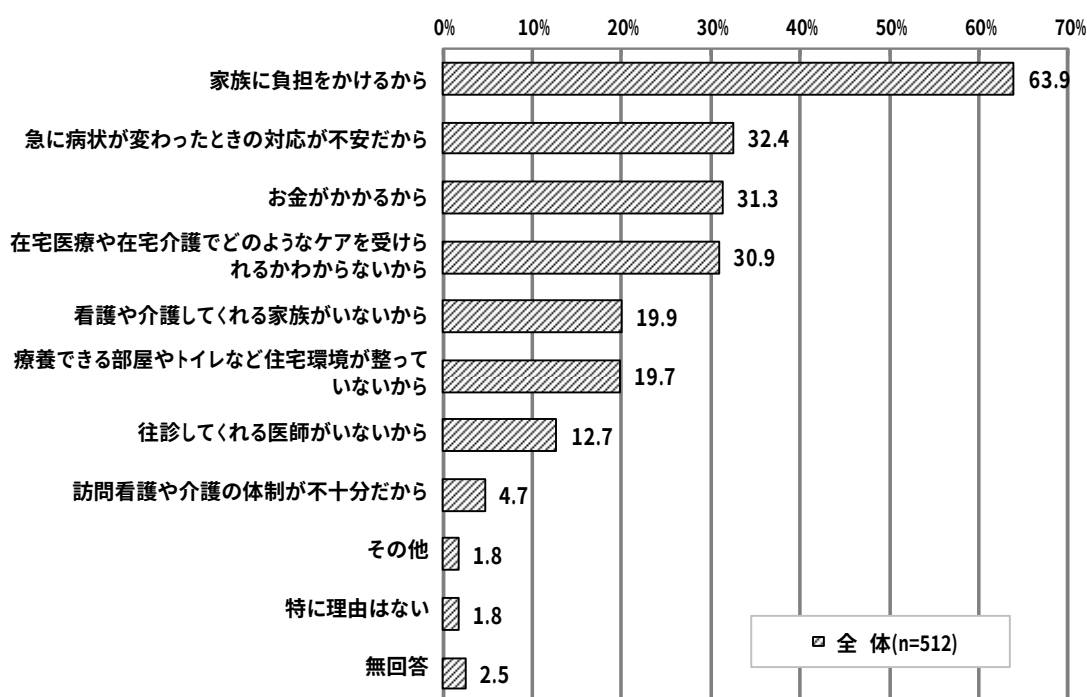


イ. 在宅療養の実現が難しいと思う理由

在宅療養の「実現は難しいと思う」と回答した人の実現が難しい理由は、「家族に負担をかけるから」が63.9%と最も多く、次いで「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が32.4%、「お金がかかるから」が31.3%、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」が30.9%、「看護や介護してくれる家族がいないから」が19.9%となっている。

地区別にみると、他の地区と比べてみどり地区では「どのようなケアを受けられるかわからないから」(42.9%)、「往診してくれる医師がいないから」(22.4%)、うめわか地区では「お金がかかるから」(43.1%)、ぶんか地区では「家族に負担をかけるから」(72.6%)、八広はなみずき地区では「看護や介護してくれる家族がいないから」(29.9%)「住宅環境が整っていないから」(29.9%)がそれぞれ多い。

■在宅療養の実現が難しいと思う理由（複数回答）



■在宅療養の実現が難しいと思う理由（複数回答）

(単位：%)

区 分	全 体	みどり	同 愛	なりひら	こうめ	むこうじま	うめわか	ぶんか	八広はなみずき
回答者数(人)	512	49	80	57	52	58	65	73	67
どのようなケアを受けられるかわからないから	30.9	42.9	35.0	26.3	32.7	34.5	21.5	27.4	29.9
急に病状が変わったときの対応が不安だから	32.4	38.8	36.3	29.8	30.8	27.6	33.8	35.6	23.9
往診してくれる医師がいないから	12.7	22.4	10.0	19.3	11.5	13.8	12.3	15.1	3.0
訪問看護や介護の体制が不十分だから	4.7	8.2	6.3	8.8	1.9	3.4	6.2	2.7	1.5
家族に負担をかけるから	63.9	65.3	66.3	54.4	61.5	60.3	61.5	72.6	61.2
看護や介護してくれる家族がいないから	19.9	24.5	15.0	21.1	23.1	19.0	21.5	11.0	29.9
住宅環境が整っていないから	19.7	16.3	21.3	22.8	15.4	22.4	12.3	17.8	29.9
お金がかかるから	31.3	28.6	22.5	28.1	26.9	29.3	43.1	37.0	32.8
その他	1.8	—	3.8	—	—	—	4.6	1.4	3.0
特に理由はない	1.8	—	—	3.5	1.9	3.4	—	4.1	1.5
無回答	2.5	—	2.5	3.5	1.9	1.7	6.2	2.7	—

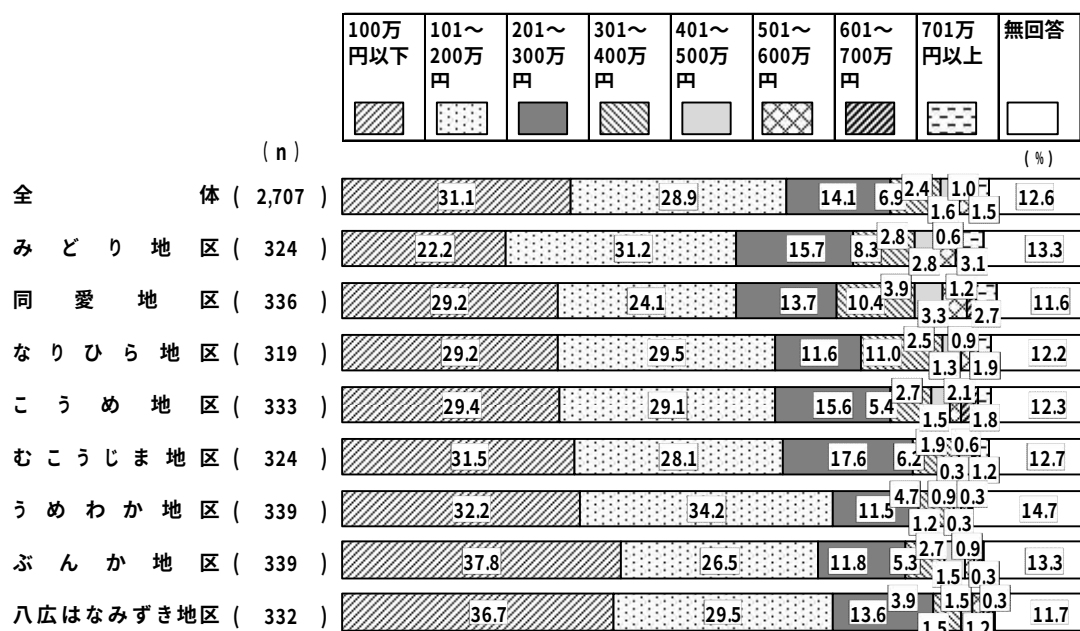
(6) 本人の収入、介護保険サービスと介護保険料

① 1年間の手取り額

1年間の手取り額について、「100万円以下」が31.1%と最も多く、「101～200万円」(28.9%)と回答した人も含めると、“200万円以下”が6割を占めている。

地区別にみると、他の地区と比べてうめわか地区、ぶんか地区、八広はなみずき地区では“200万円以下”(それぞれ66.4%、64.3%、66.2%)が多い。

■1年間の手取り額



② 介護保険サービスと介護保険料についての考え

介護保険サービスと介護保険料についての考えは、「介護保険サービスを抑えても介護保険料は安い方がよい」が25.0%と最も多く、次いで「介護保険料も介護保険サービスの量も今くらいが妥当である」が20.8%、「介護保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が13.3%となっている。

地区別にみると大きな差異はみられない。

■介護保険サービスと保険料についての考え

